

科目名	科目担当代表教員	ページ数
キャリアビジョン	沖田 勇帆	2
リハビリテーション工学	金谷 匡紘	6
臨床薬理学	續 佳代	10
救急医学	沢本 圭悟	14
地域包括ケアシステム論	水本 淳	18
チーム医療概論	佐藤 明紀	22
作業分析学実習Ⅱ	金 京室	26
作業療法研究法	大川 浩子	30
作業療法研究法演習Ⅰ	金子 翔拓	35
作業療法研究法演習Ⅱ	金子 翔拓	40
作業療法管理運営・法規	大川 浩子	45
作業療法評価学実習Ⅱ	金子 翔拓	50
機能活動代償学Ⅱ	白戸 力弥	55
身体障害作業療法治療学特論Ⅰ(運動器)	金子 翔拓	59
身体障害作業療法治療学特論Ⅱ(中枢系)	金谷 匡紘	63
身体障害作業療法治療学実習	白戸 力弥	67
高次脳機能障害作業療法治療学演習	大坂 隆介	71
発達障害作業療法治療学演習	小玉 武志	76
高齢期作業療法治療学演習	玉 珍	81
高齢期作業療法治療学特論	玉 珍	86
精神障害作業療法治療学演習	大川 浩子	90
精神障害作業療法治療学特論	大川 浩子	95
生活行為向上作業療法学	金谷 匡紘	99
日常生活適応学演習	玉 珍	103
作業療法総合セミナーⅠ	大川 浩子	108
作業療法総合セミナーⅡ	金子 翔拓	113
地域作業療法学Ⅱ	佐藤 和彦	118
産業作業療法学	白戸 力弥	122
評価実習	大川 浩子	126
総合臨床実習Ⅰ	金子 翔拓	131
総合臨床実習Ⅱ	白戸 力弥	136

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリアビジョン				ナンバリング	1134
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	沖田 勇帆						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「思考・論究・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす」能力を養うための科目である。 社会人として求められる自主性と主体性を身につけるための科目である。</p>							
授業の概要							
<p>アクティブラーニング(書く・話す・発表する等)で、作業療法士に求められる、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的に解決する力を高める。 具体的には、プレゼンテーションの作成、発表、評価などワークを通して、社会に期待される自分について学ぶ。自分のシーズと社会のニーズの差を知ること、自分の成長の歪みを分析し、考え方・行動の指標をつくること、聞く・読む・整理する能力を高め、アウトプットの精度をあげることを意図とする。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に集中して取り組み、授業ノートに簡潔にまとめることができる。 2. 概念を既有知識や経験と関連づけるWHY思考ができる。 3. 課題を、答・な・た・も・だ・志で構想し、論理的に伝達することができる。 4. 表現や言動において、客観的に見直したり立場を変えて考えたりするセルフマネジメントができる。 <p>をベースに、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 聞き手の理解度を意識したプレゼンテーションの作成及び発表ができる。 6. 評価手法を用いて多角的に評価できる。 <p>ことを目標とする。</p>							
授業の方法							
<p>前半(第2回～4回)は、パワーポイントと配付印刷物を用いて、講義形式で進める。チェックシートで自己分析をしたり、グループで話し合いをしたり、意見や考えを発表したりする。発表した意見はICT(タブレット端末やカメラ)で提示し、共有する。授業ノートとWHY思考レポートを記入し、提出する。 後半(第5回～8回)は、各グループが制作したプレゼンテーションの発表と評価を行う。評価シートを記入し、提出する。 第8回終了時に、全8回を振り返ったWHY思考レポートを提出する。</p>							
ICT活用							
ZOOMオンラインを取り入れ、国外で勤務する作業療法士の視点を学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							
沖田勇帆: 作業療法士として国外で実践を積み、アクティブラーニングについて幅広い知識を有する。							

課題に対するフィードバックの方法			
WHY思考レポートは採点し、コメントを入れて返します。プレゼンテーションは評価シートを回収して集計したものを提示し、解説を行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 自身のキャリアビジョンについて、ゴールシートを用いて深く考え理解する	シラバスを読んでおくこと。(90分)	配付プリントを復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	2. プレゼンと評価(基本) ・プレゼンテーションのフレームワーク ・プレゼンテーション作成の手順	前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	WHY思考レポートを提出。グループごとにプレゼンテーションの作成に入る(90分)。
担当教員			
第3回	3. 作業療法士に必要なスキルについて、グループに分かれプレゼンテーションの準備をする	前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	WHY思考レポートを提出。グループごとにプレゼンテーションの作成(90分)。
担当教員			
第4回	4. 作業療法士に必要なスキルについてグループ発表を行う。また他の班の発表について批評する。	前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	WHY思考レポートを提出。グループごとにプレゼンテーションの作成(90分)
担当教員			
第5回	5. 作業療法士のキャリアアップについて理解する	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。(90分)。
担当教員			

第6回	6.作業療法士のキャリアアップについて、グループでプレゼンテーションを作成する	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。(90分)。
担当教員			
第7回	7.作業療法士のキャリアアップについて、グループ発表をする。他の班の発表について批評する	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。(90分)
担当教員			
第8回	8.自身のキャリアアップについて、まとめ報告する。	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。WHY思考レポートパターン3「現代社会とキャリアプランⅡで向日葵が伝えたかったこと」を提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度とWHY思考レポートの内容から総合的に評価する。	
その他	0	なし	
教科書			
なし			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

休まず出席すること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		リハビリテーション工学				ナンバリング	2232
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、田中 栄一、梅田 信吾						
授業の位置づけ							
<p>リハビリテーションにおける身体機能および能力の補助的な手段に多様な機器等が開発されており、医療から福祉、介護までその領域は広く、その特性を工学的な視点から実用性に至るまでの視点を身につけるための科目である。作業療法および理学療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」および「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。」と関連している。「運動学Ⅰ」、「運動学Ⅱ」、「運動学実習」、「機能代償学」、「理学療法技術セミナーⅠ」と関連する。</p>							
授業の概要							
<p>リハビリテーションのための工学の基礎を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について学ぶ。特に理学療法士・作業療法士に必要な人体の制御機能および情報処理特性などに関して生体力学・人間工学的観点から、その特性に適合した福祉機器の開発とその利用方法について学習する。</p>							
到達目標							
<p>リハビリテーション工学の概要を理解し、説明できる。 車いすの種類や構造、その適応について理解し説明できる。 自助具、医療・福祉機器等を用いた生活の支援方法について理解し、説明できる。</p>							
授業の方法							
<p>パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。また、最新のトピックス等の情報も適宜、提供する。 理解度についてまとめのテストを用いて確認する。</p>							
ICT活用							
<p>Google classroom等を用いた資料提供やフィードバック等を実施する予定である。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>全ての教員がリハビリテーション工学に携わる実務経験を有する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
授業中に適宜、質問を受けます。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハ工学総論。リハビリテーション工学の歴史をはじめ福祉機器の開発や医学と工学の連携などリハビリテーション工学の概要を学習する。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第2回	車椅子の種類、構造など身体機能に合わせた車椅子の知識や技術について学習する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第3回	コミュニケーション障害における用具支援について コミュニケーションが困難な方への用具活用について学びます。	コミュニケーションに関連する解剖学生理学について復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第4回	身近なICTを活用 スマホやパソコンのアクセシビリティ機能について学び、余暇や学習支援での活用方法を学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第5回	eスポーツ Eスポーツにおけるアクセシビリティと、リハビリテーション場面での活用方法について学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第6回	<p>自助具について考えよう①</p> <p>身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。</p>	<p>これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)</p>	<p>授業の復習をしておくこと(90分)</p>
担当教員	田中 栄一		
第7回	<p>自助具について考えよう②</p> <p>身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。</p>	<p>これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)</p>	<p>授業の復習をしておくこと(90分)</p>
担当教員	田中 栄一		
第8回	<p>リハビリテーション工学についてまとめとテストを用いて復習し、理解を深める</p>	<p>これまでの授業で学んだことを復習しておくこと(90分)</p>	<p>全体の授業を通して復習をしておくこと(90分)</p>
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
都度紹介する			
履修条件・留意事項等			

8回中3回の欠席で単位の認定が不可

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学				ナンバリング	2346
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・機能)」ことと特に関係のある科目である。解剖学、生理学を習得していることが前提で、授業中の患者様の作業療法、理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。</p>							
授業の概要							
<p>医療において薬物治療の位置づけは非常に重要である。作業療法、理学療法は入院治療の一環として薬物療法と、精神療法とともに行われるものである。ほとんど全ての患者は薬物治療で症状をコントロールしながら作業療法、理学療法を受けていることをいつも考えていなければならない。講義では臨床で頻繁に出会う疾患に使用する薬剤の種類、薬効、薬効の持続、副作用について概説するので、適正な作業療法、理学療法に生かせる知識を習得する。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。 ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。 ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。 							
授業の方法							
<p>パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。 復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位など)を理解する。 	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	薬物依存症 <ul style="list-style-type: none"> 薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	末梢神経の疾患と薬 <ul style="list-style-type: none"> 自律神経系における情報伝達を理解する。 副交感神経系作用薬について理解する。 交感神経系作用薬について理解する。 痙縮治療薬について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	中枢神経系の疾患と薬 <ul style="list-style-type: none"> 神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 中枢神経系の疾患(統合失調症、パーキンソン病、アルツハイマー病)の治療薬について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 <ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。 	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
教科書			
薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		救急医学				ナンバリング	2318
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	沢本 圭悟、高橋 信行、相坂 和貴子、水野 浩利						
授業の位置づけ							
<p>医療の現場において必要とされる救急医療について講義を行う。理学療法学科のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連がある。また作業療法学科のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と関係がある。また、「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」と関係している。</p>							
授業の概要							
<p>応急処置を適切に行うことは医療関係者のみならず、一般の人間にも必要とされる。講義では主な外傷と疾病について応急処置の方法およびその必要性を説明する。また、応急処置を必要とする病態についても解説する。専門科目の急性期の身体障害作業療法分野の基礎となる。</p>							
到達目標							
<p>(1) 医療施設以外の場所で正しい応急処置を行うことができる。 (2) 外傷に対する応急処置の必要性を説明することができる。 (3) 生命の危険を生じる危険性の高い疾患について説明することができる。 (4) 正しい一次救命処置を実施することができる。</p>							
授業の方法							
スライドを中心に講義を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
現役の救急専門医等が講義を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
試験結果についてフィードバックを行う予定である。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	外傷(1)皮膚の損傷 応急処置、病院での処置、皮膚の構造、生体の防御反応、皮膚表面の細菌、皮膚の再生	皮膚の損傷について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
第2回	外傷(2)骨折・脱臼・捻挫 応急処置、病院での処置、骨の構造、骨折の合併症、関節の構造、四肢の骨折・捻挫・脱臼	骨折・脱臼・捻挫について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	高橋 信行		
第3回	外傷(3)重要臓器の外傷 応急処置、病院での処置、頭部外傷、頭蓋内血腫、頸髄損傷、胸部外傷	臓器の仕組みについて、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
第4回	外傷(4)出血 応急処置、病院での処置、大量出血とショック、輸血、血液と感染症、止血機能障害	出血が身体に及ぼす影響を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	相坂 和貴子		
第5回	疾病(1)体温異常・熱傷・感電 応急処置、病院での治療、発熱と解熱、熱傷と凍傷、体温調節、感電	体温調節における生理学的機序について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	相坂 和貴子		

第6回	疾病(2)中毒 応急処置、病院での治療、ガス中毒、食中毒、アナフィラキシー	中毒にはどのようなものがあるかを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	水野 浩利		
第7回	(疾病3)心筋梗塞・脳梗塞 血管病変の救急。	心筋梗塞・脳梗塞について復習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	水野 浩利		
第8回	定期試験外試験とまとめ	試験範囲について復習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
教科書			
指定しない。			
参考文献			
指定しない。			
履修条件・留意事項等			

学生証を用いた出席認証を行う予定のため、忘れず持参すること。

備考欄

非常勤講師の都合上、授業はシラバス順また、時間割通りとならないことがある。この場合、なるべく早めにスケジュールを通知する。

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	2290
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」「医療に関わる他の職種役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。」「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。」などとも関係する。</p>							
授業の概要							
在宅療養者と家族の生活を支える社会保障サービスおよび介護保険制度の仕組みを理解し、地域包括ケアシステムにおける関係職種・関係機関の役割について理解する。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。 							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式で進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。 							
ICT活用							
<ul style="list-style-type: none"> ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。 							
実務経験のある教員の教育内容							
水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。 ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。 			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域包括ケアシステムの概要について 1) 地域包括ケアの概念 2) 地域連携の理論と方法 3) 我が国の社会保障制度の変遷 4) 我が国の医療の背景と特徴, ケアサイクルの概念と理論 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			
第2回	地域連携の方法論と地域包括ケアシステムにおける地域連携と多職種連携について 1) インテグレートケア 2) 連携の方法 3) 地域包括ケアシステムが求められる背景 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			
第3回	地域医療と介護のシステム化 1) 様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			
第4回	地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割 1) 退院支援から地域連携におけるリハ職や看護職の役割 2) 退院支援のプロセス 小テスト1	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. (90分)
担当教員			
第5回	小テスト1の解説 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割 1) 薬剤師, ソーシャルワーカーなど他の役割 2) 地域連携の展望と課題 3) 認知症ケアが必要とする地域連携 4) 小規模多機能型居宅介護が進める地域連携 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			

第6回	生活をつなぐ地域連携、医療・介護・福祉の地域ネットワークづくりの取り組み ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			
第7回	地域包括ケアにおける地域連携の実践 ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			
第8回	地域包括ケアシステムの展望について 小テスト2	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
教科書			
地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社			
参考文献			
講義内で紹介する			
履修条件・留意事項等			

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	2384
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、續 佳代、松本 信子、鹿内 あずさ、金谷 匡紘						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」に対応する科目である。
「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」と関連する。

授業の概要

病と老いの障害の連続化の中で、障害者、高齢者を支えるために医療と福祉と保健、施設と在宅がどう結び合っていくべきか、新しいパラダイムが求められる。予防から治療、リハビリ、社会復帰に至るまで、各専門分野のスタッフとともに職能を存分に発揮するだけでなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが必要である。そのためには、本学における生活習慣病および栄養管理のあり方としての栄養学はもとより、保健予防医学、スポーツ障害に対する運動療法学、日常の諸活動を対象とする作業療法学、コミュニケーション、介護、看護学など全人的ケアに欠かせない分野の理解を深める。

到達目標

- ・医療は誰のものか医療が目指すものは何かを理解できる。
- ・医療システムとしてのチーム医療の目指すものは何かについて考えることができる。
- ・チーム医療の方法論、課題等理解を深めることができる。

授業の方法

講義形式で展開する。パワーポイントと配布印刷物も用いる。
グループワークとグループ発表を行う。

ICT活用

Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。
必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤(理学療法士)、金谷(作業療法士)、續(薬剤師)、鹿内(看護師)、松本(管理栄養士)は、これまでの臨床・研究の経験を基に授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして授業中に適宜、質問を受けます。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	チーム医療総論 チーム医療が推進される背景や概念などを学び、多職種 チーム連携の重要性を理解し学習する。 チーム医療における理学療法士の役割 理学療法の専門性と、チームにおける役割を学ぶ。	チーム医療に関する最新の情 報を調べておくこと(90分)	チーム医療に関する最新の情 報を調べておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	チーム医療における作業療法士の役割 ・“作業”とは？ ・作業療法士は何をする職種なのか？ ・作業療法士がチーム医療で大切にしていること	作業療法士の専門性について 調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	保健医療チームにおける看護職の職種と役割 看護職の国家資格には、保健師、助産師、看護師、准看 護師がある。対象者の健康レベルやライフステージに合わ せた看護職の役割について学ぶ。	看護師の専門性について考え ておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第4回	保健医療チームにおける看護師の活動、及び、他職種と の連携(鹿内) 様々な活動の場における看護師の活動内容と他職種との 連携の方法、及び、その重要性について学ぶ。	前回の講義資料を読んでくるこ と(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第5回	チーム医療における薬剤師の役割 チーム医療において、薬剤師がどのような役割を果たして いるのか、理解する。	薬剤師の専門性について調べ ておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	續 佳代		

第6回	チーム医療における管理栄養士の役割 栄養士・管理栄養士の専門性とチーム医療における役割を学ぶ。	管理栄養士の専門性について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	松本 信子		
第7回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
教科書			
なし。 適宜、資料を配布します。			
参考文献			
「チーム医療」とは何か / 細田満和子 著 / 日本看護協会出版会			
履修条件・留意事項等			

無断欠席は厳禁。休んだ場合は欠席届を提出すること。

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業分析学実習Ⅱ				ナンバリング	3415
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金 京室、渡辺 明日香、白戸 力弥、佐々木 修一						
授業の位置づけ							
<p>作業療法学科のディプロマポリシーである「作業療法を実践するために必要な基本的知識および知識を身につけている(知識・技能)」、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」ことと関係がしている科目である。特に、「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる」ことと深く関係している科目である。</p>							
授業の概要							
<p>作業療法の治療場面で用いられている作業活動を実際に体験し、手順や種目の特性、心身機能との関係について理解する。障害を持った方への作業導入時の段階付けや道具の工夫、配慮すべき点やリスクマネジメントについて学ぶ。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 各作業種目について、実施手順や道具の使用方法、注意点などを説明できる。 各作業種目の分析を通して、作業活動と心身機能との関係や治療的意味・効果について説明できる。 作業種目の特性や疾患に応じた対象者への作業の工夫、段階付け、リスクマネジメントを理解し、企画・立案・実行ができる。 							
授業の方法							
<p>実習での体験をもとに作業分析を行う。種目によっては、グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーション内容について、教員から適宜、フィードバックを行う。</p>							
ICT活用							
<p>農耕・園芸でClassroomに見回り時の写真や観察結果・感想を投稿することにより、畑の様子をクラスや教員で共有し、作物を共に育てる雰囲気を楽しめるようにする。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>草細工以外の種目においては、作業療法の臨床において、多様な作業を活用した経験がある教員が、作業の重要性を体験的に教授する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・革細工① ・作業分析を理解し、簡単な作業の分析シートを記載する。 ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	革細工で使用する道具について、予習しておくこと(90分)	革細工で使用する道具についてまとめておくこと(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第2回	革細工② ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	必要な材料、道具、問題になると予測される工程の抽出、注意点、予測されるリスクについて検討すること(90分)	作業分析レポートを作成すること(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第3回	革細工③ ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	必要な材料、道具、問題になると予測される工程の抽出、注意点、予測されるリスクについて検討すること(90分)	作業分析レポートを作成し、提出すること。(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第4回	農耕・園芸① A①オリエンテーション(ゲスト・宮下氏) ②肥料入れと耕し、畝づくり、木酢液を播く、黒マルチ貼り(ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型事業所やまびメンバー紹介) B 園芸療法や農福連携の文献から1本目を選び読み、自分の感想・考察を書く。設問の用語について調べる作業。 ◎グループ学習: I groupは3講目A, 4講目B, II groupは3講目B, 4講目A	農耕・園芸に必要な器具、道具、場所の準備作業と確認。Classroomに置いた資料を読むこと。(90分)	Bの課題を完成して提出(Google Form)。見回り当番表を見て、今後の作業の見直しをもつ。土作りや見回りについてのクイズに答える(Google Form)。(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
第5回	身体と精神の関連を利用した心身アプローチ ・ボディワーク(全身リラクゼーションストレッチ、リラクゼーション法)の体験 ボディワークの前後で心拍数測定、気分検査、FAB検査(の1部)などを実施しどのような心身変化があるかを調べる。 ・全身ストレッチについては、リーダーとしての体験もする。 ・その他 盆踊りなど	あらかじめClassroomに置いた文献を読んでおく。(90分)	身体と精神の関連を利用した心身アプローチに関するレポート課題を提出する。 5月3週から当番開始。当番グループは、黒マルチの片側を外して畝を空気に晒し、もう一度被せること。畑見守り用Classroomに農園や作業の様子の写真と観察・感想を投稿して次のグループに伝達。(90分)
担当教員	渡辺 明日香		

<p>第6回</p>	<p>農耕・園芸② A・苗の植え付け・種播き・豆播き：やり方を理解した後、作業する(ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型事業所やまびこメンバーとの共同作業) B・園芸療法や農福連携の文献から2本目を選んで読み、自分の感想・考察を書く。設問の用語について調べる作業。 ◎グループ学習：I groupは3講目B, 4講目A, II groupは3講目A, 4講目B</p>	<p>Classroomの作物の育て方資料を読んでおく。(90分)</p>	<p>Bの課題を完成して提出する(Google Form)。 5月4週の見回り当番グループは農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに農園や作業の様子の写真と観察・感想を投稿すること。(90分)</p>
<p>担当教員 渡辺 明日香</p>			
<p>第7回</p>	<p>作業分析 ・これまで行った作業活動を筋電計を用いて計測し、作業と身体活動の関係を分析し考察する。</p>	<p>筋電計について、おおまかに予習しておくこと(90分)</p>	<p>授業内容についてまとめておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 白戸 力弥</p>			
<p>第8回</p>	<p>ADL活動の分析 ・調理や掃除などADL場面で行う活動を計画し、実践・分析する。 ・片麻痺など機能障害を想定し、各活動における援助・指導を行うことができる</p>	<p>ADL活動が持つ作業の特性について予習しておくこと(90分)</p>	<p>活動の分析や機能障害に対する援助・指導方法を復習すること(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			
<p>第9回</p>	<p>農耕・園芸③ A・作物管理作業(ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型やまびこメンバーとの共同作業) B・大学内散歩:リンゴの木、ブラックベリーを観察を含む。 ◎グループ学習：I groupは3講目A, 4講目B, II groupは3講目B, 4講目A (両グループとも農園に集合)</p>	<p>農耕・園芸:Classroomの作物の育て方資料を読んで次にどんな作業を行う必要があるのかを考えること。 教科書1:散歩について読むこと。(90分)</p>	<p>B散歩についての課題を提出。 6月4週の見回り当番グループは農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに作物や作業の様子の写真と観察・感想を投稿して次のグループに伝達。ミニトマトと花は収穫し利用して良い。(90分)</p>
<p>担当教員 渡辺 明日香</p>			
<p>第10回</p>	<p>ADL活動およびレクリエーションの分析 ・片麻痺調理の分析についてフィードバックを行う。 ・高齢者および小児を対象としたレクリエーションを実践、分析する。</p>	<p>片麻痺調理およびレクリエーションについて、おおまかに予習しておくこと(90分)</p>	<p>授業内容についてまとめておくこと(90分)</p>
<p>担当教員 金 京室</p>			

第11回	<p>農耕・園芸④ A・収穫と保存(ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型やまびこメンバーとの共同作業) ミントマトと花は収穫して利用する。 ・作物管理作業 B・大学内散歩:リンゴの木、ブラックベリーを観察を含む。</p> <p>◎グループ学習: I groupは3講目B, 4講目A, II groupは3講目A, 4講目B (両グループとも農園に集合)</p>	<p>あらかじめClassroomに置いた収穫・保存の仕方を読んでおく。(90分)</p>	<p>B散歩についての課題を提出。(90分)</p> <p>7月5週の見回り当番グループは農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに作物や作業の様子の写真と観察・感想を投稿して次のグループに伝達。(90分)</p>
-------------	---	---	---

担当教員	渡辺 明日香		
------	--------	--	--

第12回	<p>農耕・園芸⑤ ・収穫(12:30～) ・調理と試食と交流、後片付け (ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型やまびこメンバーは試食のみ)</p>	<p>調理グループに別れ、あらかじめレシピを決め、調理の役割決めをしておく。収穫した作物を調理場に運ぶ。調理用具の準備をする。(90分)</p>	<p>農耕・園芸の作業分析、作業療法での利用の実情、今後の活用のアイデアなどをテーマにレポートを作成(90分)</p> <p>8月2週の見回り当番グループは農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに作物や作業の様子の写真と観察・感想を投稿。収穫した作物は学生・教員・やまびこグループで分けあう。(90分)</p>
-------------	--	--	--

担当教員	渡辺 明日香		
------	--------	--	--

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート・プレゼンテーション内容(40%) 授業参加態度(30%) 事前事後学習の遂行状況およびClassroomへの投稿(30%)
その他	0	

教科書

- 作業-その治療的応用 日本作業療法士協会編 協同医書出版社
- ひとと作業・作業活動 作業の地をとき技を育む 山根寛著 三輪書店

参考文献

Classroomに配布する資料

履修条件・留意事項等

特別な理由がない限り欠席は認めない。
テーマに応じて作業分析レポートを作成する。
農耕・園芸の事前事後学習では、畑の見回り(作物管理作業)を当番表グループで実施する。汚れても良い動きやすい服装で参加すること。靴は長靴がのぞましい。
農耕・園芸授業日は小雨でも決行するので、レインコートを持参すること。夏は帽子・日焼け止めクリーム、水筒、タオルなどを用意すること。疲

備考欄

農耕・園芸作業を通して就労支援B型事業所やまびこ利用者とそのジョブコーチ市丸氏と交流する機会があるので、貴重な時間を楽しみつつ信頼関係を育むこと。地域在住高齢者と地域包括支援センタースタッフの作物管理作業などへのボランティア参加があるかも知れないが、打診中なので、はっきりした時点で参加日などを連絡します。畑締めは、9月予定。
9月中の農園管理は学科で行います。

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法				ナンバリング	3412
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。(思考・判断・表現)」とも関係する科目である。「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究法演習Ⅱ」の基礎となる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>作業療法における研究の必要性を理解し、研究を行う際に必要な知識(研究の種類と方法、研究論文の構成、計画書の作成法など)を身に付ける。さらに、研究疑問の発展、文献検索と読み込み、研究計画書の作成と口頭発表に向けた研究導入プロセスを理解し、作業療法に関する研究を実践するための基礎能力を養成する。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法における研究の必要性を理解し、卒業研究を行う際に必要な研究の種類と方法、計画書の書き方、発表方法を獲得する。 2. 論文の研究疑問・仮説の有無・研究デザインやタイプ・論文の構成・方法や分析法などを正しく把握して説明することができる。 3. 論文の内容を理解し、自分の考え方と対応させて感想や考察を述べることができる。 4. 自分の研究疑問を発展させ、研究計画書を作成できる。 							
授業の方法							
教科書や配布資料を使用しての講義および、グループワークや演習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして授業内課題及び小テストは後日コメントをします。また、確認テストは実施後、その場でフィードバックします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(本科目の概要と作業療法研究(卒業研究)について)及び研究の基礎知識①:研究の流れについて 今後、実際に進める研究の基本的な流れについて学ぶ	本科目及び「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究法演習Ⅱ」のシラバスについて目を通すこと(15分)	卒業研究のために必要な工程について再度確認すること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	研究の基礎知識②:研究デザイン(研究設計)にはどのようなものがあるかを知る 研究の目的による類型、手法による類型を学ぶ	作業療法研究法 P62～「研究の類型」について目を通すこと(30分)	学んだ研究デザインについてまとめること(15分)
担当教員	大川 浩子		
第3回	演習①:文献検索法:J-DreamⅢ 医学中央雑誌など 図書館のパソコンを使い文献検索方法を学ぶ。また実際に検索及び文献収集を体験し習得する ※日程を図書館と調整し、決定後、以下の日程が変更される場合があります	作業療法研究法 P69～「文献検索」について目を通しておくこと(15分)	自分の関心がある作業療法に関連するキーワードを用いて、実際にデータベースを利用して文献を検索すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	各種の研究手法①:文献レビュー・文献研究と調査研究 文献レビュー及び文献研究、調査研究の目的及び手法について学ぶ	作業療法研究法 P69～「文献レビュー」「文献研究」「調査研究」について目を通すこと(15分)	学んだ各手法についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第5回	各種の研究手法②:実験研究 ・実験研究の特徴を学ぶ ・実験の統制方法を学ぶ ・実験研究の種類(デザイン)を学ぶ。	教科書の作業療法研究法 P98～「実験研究」について目を通すこと(15分)	実験研究の手法についてまとめること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		

第6回	各種の研究手法③:事例研究と質的研究 質的研究の種類と手法、事例研究においては、研究倫理で重要な個人情報保護についても学ぶ	教科書の作業療法研究法 P109 ～「事例研究」P201「質的研究」 について目を通すこと(15分)	学んだ各手法についてまとめる こと(30分)
担当教員	大川 浩子		
第7回	研究の基礎知識③:統計を用いて研究データを分析する ① なぜ統計を用いるのかを理解し、統計の基礎知識と手順を理解する。	教科書の作業療法研究法 P179 ～「統計に関する知識」につい て確認しておくこと(15分)	自分の関心ある文献を検索し、 統計がどのように用いられてい るか確認すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	研究の基礎知識④:統計を用いて研究データを分析する ② 臨床場面でのデータを基に、統計手法による分析につい て学ぶ。	統計の基本的な検定について 確認すること(15分)	Excelで実施可能な検定につい て、実際の取り組むこと(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第9回	演習②:研究疑問と文献リストの作成 研究疑問を書き出し、卒業研究として取り組みたい研究疑 問を決定し、文献リストを作る	自分の研究疑問について複数 あげておくこと(15分)	完成させた文献リストにある文献 について目を通すこと(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第10回	演習③:論文の分析—調査研究 研究の必要生、研究法、研究デザインを把握する。論文 の構成などについて理解する	自分の関心がある調査研究の 文献を1つ以上読むこと(15分)	本日学んだ論文の構成につい て、確認すること(30分)
担当教員	大川 浩子		

第11回	演習④:論文の分析－実験研究 統計解析法を理解する。論文の長所・短所などについて 考え、感想を話し合う	自分の関心がある実験研究の 文献を1つ以上読み、統計がど のように用いられているか確認 すること(30分)	本日学んだ論文の構成につい て、確認すること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	演習⑤:論文の分析－事例研究 研究目的, 事例紹介, 評価, 実施計画, 介入経過など論 文の構成について理解する	自分の関心がある事例研究の 文献を1つ以上読むこと(30分)	本日学んだ論文の構成につい て、確認すること(15分)
担当教員	大川 浩子		
第13回	研究の基礎知識⑤:論文の構成と表し方と効果的な図表 論文の構成について学習する。結果データの図表による 効果的な見せ方の方法や種類について理解する	自分が今まで集めた文献に、ど んな図表のが使われているか、 また用い方について確認するこ と(15分)	Excelで作成可能な図表につい て確認すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	演習⑥:研究テーマの決定と作成 文献リストに挙げた文献を読み、文献内容についてメモを 作成し、研究テーマを決定する。更に、卒業研究で取り組 む研究計画書を作成する。	7回目の事後学習で集めた文献 に目を通し、内容を理解すること (15分)	A4用紙1枚程度に研究計画書 をまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	研究法のまとめ 1～14回目までに学習した研究法や検定等について小テ スト等を用いて確認する。	本講義1～14回目について確認 する(30分)	15回目の講義を踏まえ、研究法 及び検定について確認する(15 分)
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(50%)、授業内課題(40%)、授業態度(小テストを含む)(10%)
その他	0	
教科書		
作業療法研究法第2版/山田孝編/医学書院 今日から使えるリハビリテーションのための統計学第2版/高橋仁美/医歯薬出版		
参考文献		
作業療法士のための研究法入門/鎌倉矩子/三輪書店		
履修条件・留意事項等		
他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。授業内容により、変則講義となることがあるので注意すること。新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法演習 I				ナンバリング	4601
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」こととも関係する。「作業療法研究法」を基礎とし、「作業療法研究法演習Ⅱ」につながる科目である。

授業の概要

作業療法研究法演習Ⅰ・Ⅱの目的は、既習得した作業療法に関する研究テーマを設定し、各教員の指導のもとに、研究の目的、方法及び対象、データの収集と分析、引用、及び、参考文献の収集、実験・調査結果の考察にまで至る、一連の論文作成過程を通して基本的な研究能力を培うものである。このうち作業療法研究法演習Ⅰでは、研究計画の作成までを行う。

到達目標

- 1) 指導教員の指導に基づき、研究テーマを決定することができる。
- 2) 研究テーマに沿った適切なキーワードを用い、文献検索を行うことができる。
- 3) 入手した文献の内容を説明できる。
- 4) 指導教員の指導に基づき、研究計画を立案できる。
- 5) 研究計画をパワーポイントを用いて発表できる。
- 6) 作業療法研究計画発表会では真摯な態度で積極的に質疑応答に参加できる。

授業の方法

基本は指導担当教員によるゼミ形式であるが、研究計画書の発表等は学年全体に学生がプレゼンテーションを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
ゼミ単位で教員を含めて研究計画の討論を行う。また、研究計画発表会の際にクラスの学生や他の教員の質問に答え、討論を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	指導教員の決定 各担当教員がそれぞれの主要な研究内容についてアナウンスし、希望を取った後、指導教員を決定する	各教員の研究内容、指導方法を確認し、自分の興味のあるテーマについて検討する(20分)	教員の助言にもとづいて、研究疑問についてまとめる(25分)
担当教員			
第2回	研究テーマの決定① 学生の興味と各担当教員の研究内容に応じて、各学生ごとに研究疑問を整理する	自分自身の研究疑問を書き出し、先行研究等を調べ、検討する(20分)	教員の助言にもとづいて、研究テーマ決定に向けた先行研究の調査を行う(25分)
担当教員			
第3回	研究テーマの決定② 卒業研究として各自の研究テーマを決定する	教員の指導にもとづいて、自分の研究疑問を解決する方法について、文献等で検討する(25分)	教員の助言にもとづいて、決定した研究テーマに関する先行研究について探索する(20分)
担当教員			
第4回	研究計画書の作成① 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			
第5回	研究計画書の作成② 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			

第6回	研究計画書の作成③ 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			
第7回	研究計画書の作成④ 研究方法(結果の解析方法を含む)について、検討し、決定する	担当教員の指導にもとづいて、研究方法・解析方法をまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、研究計画の方法について、先行研究を確認し、修正する(25分)
担当教員			
第8回	研究計画書の作成⑤ 研究方法(結果の解析方法を含む)について、検討し、決定する	担当教員の指導にもとづいて、研究方法・解析方法をまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、研究計画の方法について、先行研究を確認し、修正する(25分)
担当教員			
第9回	研究計画書の作成⑥ 指定されたフォームに従った計画書発表用抄録を担当教員の指導の下で作成する。	担当教員指導にもとづいて、所定のフォームに従った抄録を作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、先行研究を確認し、抄録を修正する(25分)
担当教員			
第10回	研究計画書の作成⑦ 指定されたフォームに従った計画書発表用抄録を担当教員の指導の下で作成する。	担当教員指導にもとづいて、所定のフォームに従った抄録を作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、先行研究を確認し、抄録を修正する(25分)
担当教員			

第11回	研究計画書の作成⑧ 研究計画の発表にむけてプレゼンテーション用のパワーポイントを担当教員の指導の下で作成する。	担当教員に指導を受けるために、パワーポイントを作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、パワーポイントを修正し、プレゼンテーションの練習をする(25分)
担当教員			
第12回	研究計画の発表① 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第13回	研究計画の発表② 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第14回	研究計画の発表③ 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第15回	研究計画の発表④ 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画発表会及びゼミにおける遂行状況
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
研究計画発表会を欠席した場合は出席回数を満たしても不合格となる場合がある。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法演習Ⅱ				ナンバリング	4602
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。また、「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」とも関係する科目である。「作業療法研究法」「作業療法研究法演習Ⅰ」を基礎とし、「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」につながる科目である。

授業の概要

作業療法研究の目的は、既に習得した作業療法に関する研究テーマを設定し、各教員の指導のもとに、研究の目的、方法及び対象、データの収集と分析、引用、及び、参考文献の収集、実験・調査結果の考察にまで至る、一連の論文作成過程を通して基本的な研究能力を培うものである。作業療法研究Ⅰでの研究計画にもとづき研究成果のまとめまでを行う。

到達目標

- 1) 研究計画に基づき、適切な方法(倫理的配慮を含む)を用いて、研究を遂行し結果を分析・考察できる。
- 2) 執筆規定に従って研究抄録(A4用紙2枚)を書くことができる。
- 3) 取り組んだ研究の限界を説明できる。
- 4) 研究の成果を発表することができる。
- 5) 作業療法研究発表では真摯な態度で積極的に質疑応答に参加できる。

授業の方法

指導担当教員によるゼミ形式で進める。卒業研究発表会は全体で行い、成果を確認する。

ICT活用

最後のポスター発表のためにパワーポイントまたはGoogleスライドを用いて学生自らがポスターを作成する。
遠隔授業が中心になるときは、オンラインで発表会を行う。
評価には、観点を決めて教員のみでなく学生の相互評価得点も含め、リアルタイムで結果を確認できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
ゼミではゼミ教員及び関連教員がフィードバックする。発表会では複数の教員が質疑を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究の実施① ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第2回	研究の実施② ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第3回	研究の実施③ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第4回	研究の実施④ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第5回	研究の実施⑤ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			

第6回	結果の解析・考察① ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			
第7回	結果の解析・考察②・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			
第8回	結果の解析・考察③・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			
第9回	結果の解析・考察④ ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			
第10回	研究抄録の作成① ・執筆規定にあわせて研究抄録を作成する。	担当教員の指導を受けるために、規程に合わせて抄録を作成する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、抄録を修正する(90分)
担当教員			

第11回	研究抄録の作成② ・執筆規定にあわせて研究抄録を作成する。	担当教員の指導を受けるために、 規程に合わせて抄録を作成する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 抄録を修正する(90分)
担当教員			
第12回	発表の準備① ・研究成果について、発表用ポスターの作成を行う。	担当教員の指導を受けるために、 発表用ポスター等を準備する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 発表用ポスター等を修正する(90分)
担当教員			
第13回	発表の準備② ・発表の練習をする。質疑応答用の想定される質問と回答を考えておく。	卒業研究発表会でのプレゼンテーションを練習する(90分)	卒業研究発表会での質疑応答にむけて、プレゼンテーション方法の修正、質疑応答に対する自己学習を行う(90分)
担当教員			
第14回	卒業研究発表会① ・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行う。	会場を設営し、発表用ポスター等をわかりやすく展示する(90分)	質疑応答から、自分の研究に関する限界、不足についてまとめる(90分)
担当教員			
第15回	卒業研究発表 ・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行う。他の学生の研究成果を真摯に聴き、質問し理解する。	配布された抄録集を読み込み、 関心のあるテーマについて質疑を準備する(90分)	行った質疑応答をもとに、自分たちが携わった以外の研究手法についても理解を深め、国家試験に対応できる思考力を身に着ける(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表会及びゼミにおける遂行状況を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
各指導教員が研究内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
参考文献		
各指導教員が研究内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
履修条件・留意事項等		
自ら積極的に研究に取り組むことが望まれる。また、最終の発表会を欠席した場合は出席回数を満たしても不合格となる場合がある。		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法管理学					
科目名		作業療法管理運営・法規				ナンバリング	3460
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)」とも関係する科目である。さらに、作業療法概論を基礎として、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにつながる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>作業療法士の身分法や医療法、介護保険法、障害者総合支援法などの関連法規について学ぶ。また、作業療法士の職業倫理指針に基づいて、自己研鑽や業務遂行上の最善努力、安全性への配慮、職能間の協調といった焦点に対する実際的な業務のあり方について学ぶ。すなわち、土地建物から什器・調度に至るハードウェアに関する必要知識を身につけ、さらに人員や物品の管理・組織運営、リスク管理の方法、生涯学習の方法といったソフトウェアについて学び、チームアプローチの土台となる組織運営のあり方について考察する。さらに、診療報酬制度・介護報酬制度を学ぶ際には、医療経済学についても視野に納める。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士に求められるマネジメントや職業倫理の大切さについて自分の考えを述べることができる。 2. 作業療法部門に必要なスペース、職種、人員、設備、備品、消耗品について説明できる。 3. 作業療法部門における感染症対策、リスク管理について説明できる。 4. 部門内、または他部門との連絡調整に必要な記録や報告、連携について説明できる。 5. 作業療法部門の管理・運営について人的、物理的、経済的に考察できる。 6. 作業療法士を取り巻く組織や職能団体の必要性について説明することができる。 7. 診療報酬・介護報酬を含めた社会保障制度の現状について説明ができる。 							
授業の方法							
<p>パワーポイント、教科書、配布資料による講義形式で実施し、グループワーク等で理解を深める。作業療法室の設計および収支計画については、グループワーク形式で実施し、プレゼン資料を作成する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
発表についてその場でフィードバックする。課題レポートについては適宜コメント、またはフィードバックをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	本科目のオリエンテーション、作業療法における管理運営・法規の外観 本科目の構成と履修方法を確認し、到達目標を理解する。また、今後求められる作業療法士のマネジメントについて理解を深める。	教科書第1章を読むこと。評価実習の経験を踏まえ、本科目の内容と関連することを確認する。(90分)	マネジメントに関する資料を検索し、本日の内容と比較する。(90分)
担当教員			
第2回	職業倫理① 作業療法士の職業倫理 作業療法士の職業倫理・研究倫理を理解する。また、対象者等も含めた倫理的な基礎知識を理解し、倫理的問題について学ぶ。	作業療法概論で学んだ職業倫理を確認し、教科書第10章を読むこと。(90分)	作業療法士に起こりうる倫理的問題についてWebで検索する。(90分)
担当教員			
第3回	職業倫理② 倫理に関する問題を考える グループごとに作業療法士に起こりうる倫理的な問題についてディスカッションし、様々な立場や見方を理解し、職業倫理を体感する。	医療・福祉における倫理的な問題について、Web等で検索する。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
第4回	情報のマネジメント 作業療法概論で学んだ記録の重要性を再確認する。さらに、多職種連携のために必要となるコミュニケーションや情報の取り扱いについて学ぶ。	作業療法概論で学んだ記録について確認し、教科書第3章を読む。(90分)	情報管理と取り扱いについてまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	作業療法と医療サービス サービスとは何か、医療におけるサービスについて学び、作業療法におけるサービスのマネジメントを理解する。	医療サービスと他のサービスの違いを考え、教科書第4章を読む。(90分)	作業療法を提供する上で必要となるマネジメントについてまとめる。(90分)
担当教員			

第6回	医療安全のマネジメント 医療におけるアクシデントやインシデントについて学び、医療事故を減らすため仕組みを理解する。また、標準予防策を含めた感染対策を理解する。	評価実習の施設で行われていた、医療事故・感染対策を列挙し、教科書第5章を読む。(90分)	臨床実習で起こりうるインシデントの例と予防策を考えまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	作業療法業務のマネジメント①:人・物・経済性のマネジメント 新人教育を含めた人材育成や環境整備について理解する。また、作業療法業務の経済性を理解する。	評価実習施設で行われていた環境整備の例を列挙し、教科書第6章を読む。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
第8回	作業療法業務のマネジメント②:情報・時間・ストレスのマネジメント 作業療法業務における情報や時間、ストレスに対するマネジメントを学ぶ。	教科書第7章を読み、評価実習で自分が使用していたストレスマネジメントをあげる。(90分)	臨床実習における時間管理とストレスマネジメントについてまとめ、総合臨床実習 I・II で用いることができるよう準備する。(90分)
担当教員			
第9回	作業療法業務のマネジメント③:実践からの学びと確認テスト 作業療法実践のための業務管理、人材育成や連携について学ぶ。また、地域や行政機関、災害時の役割を理解する。また、確認テストを実施し、1～8回の講義内容の理解を確認する。	地域で活動する作業療法士の例をWebで確認した上で、教科書第8章を読む。(90分)	確認テストで誤った点を、教科書等を利用して確認する。(90分)
担当教員			
第10回	作業療法を取り巻く諸制度:わが国の社会保障制度の現状について学ぶ。特に、近年の変化の大きい法改正について確認する。	作業療法概論等で学習してきた法制度について確認する。(90分)	教科書11章に記載されている諸制度についてWebで調べ、改正点を追記してまとめる。(90分)
担当教員			

第11回	作業療法室の設計① 所属施設、地域性、部門の位置づけ、施設認可区分、土地建物、デザイン、設備・備品・消耗品について学ぶ。	評価実習で経験した作業療法の枠組みについてまとめること。(90分)	グループ発表に向けたパワーポイントを作成すること。(90分)
担当教員			
第12回	作業療法室の設計② パワーポイントを使用し、グループで発表を行う。	グループ発表に関する準備を行う。(90分)	リハビリテーション室(作業療法室)に必要な物品をピックアップし、管理についてまとめる(90分)。
担当教員			
第13回	作業療法士の役割と職域 作業療法士の役割や職域、法律について理解する。また、作業療法士が所属する職能団体について知り、作業療法士の生涯学習の必要性について学ぶ。	作業療法概論で学んだ理学療法士及び作業療法士方を確認した上で、教科書第9章を読む。(90分)	日本作業療法士協会、北海道作業療法士会のHPにアクセスし、職能団体の活動について理解する(90分)
担当教員			
第14回	作業療法士のキャリア開発①作業療法士の期待される領域 作業療法士が期待される領域について学ぶ。特に、近年増加している作業療法士の起業や地域での連携について考える。	起業している作業療法士の活動例についてWeb等で検索する。(90分)	次回の確認テストに向けて9～14回で学んだ内容をまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	作業療法士のキャリア開発②作業療法士のキャリアを開発するためにと確認テスト 作業療法士の資格認定制度や学会研修会を知る。また、ワークライフバランスをふまえたキャリア開発を考える。最後に確認テストを実施し、9～15回の講義内容の理解を確認する。	免許取得後の自分のキャリアについて考える。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題20%、確認テスト50%、課題レポート30%
その他	0	
教科書		
作業療法管理学入門第2版/大庭潤平/医歯薬出版		
参考文献		
講義中に随時紹介する		
履修条件・留意事項等		
感染症の蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学実習Ⅱ				ナンバリング	3447
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「知識・技能」の「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」ための科目である。
臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの基礎となる。

授業の概要

作業療法評価学、評価学演習および評価学実習Ⅰを基盤とし、臨床で行われている各種の検査・測定に関する評価技法を学ぶ。また、疾患の特徴や障害像と照らし合わせ、評価結果の統合解釈に至る過程を学ぶ。

到達目標

- ・作業療法における身体機能面の評価方法が実施できるようになる
- ・評価の方法、目的を理解し疾患や障害と結び付けることができるようになる
- ・評価実習で用いる検査・測定方法を理解し、実施できるようになる
- ・Basic OSCEにより模擬患者に対して適切に評価手技を実施できるようになる

授業の方法

スライドを用いた講義、デモンストレーション後に実技を行う。また、学外施設において検査実習を2回実施する。

ICT活用

Google formを活用し、確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員が本科目に関わる実務経験を有している(臨床実践5年以上)。

課題に対するフィードバックの方法			
Basic OSCE後にフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースガイド 徒手筋力検査① 頸部・体幹筋の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)p2-p79を予習すること。体幹・頸部の筋について調べておくこと(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	金子 翔拓		
第2回	徒手筋力検査② 上肢(肩周囲筋・肘関節屈筋群および伸筋群)の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)p82-p148を予習すること。上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	白戸 力弥		
第3回	徒手筋力検査③ 上肢(前腕回内外・手関節屈筋群および伸筋群)の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)p149-p166を予習すること。上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	白戸 力弥		
第4回	徒手筋力検査④ 手指の運動に関わる筋群の検査法について実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)p167-p203を予習すること。上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	白戸 力弥		
第5回	徒手筋力検査⑤ 下肢筋群の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)p206-p279を予習すること。下肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	金子 翔拓		

第6回	神経学的検査法① 脳神経領域の検査を実習する。	教科書(作業療法評価学第3版)p168-p183を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	金谷 匡紘		
第7回	神経学的検査法① 脳神経領域の検査を実習する。	教科書(作業療法評価学第3版)p168-p183を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	基本動作① 発達学的側面から姿勢反射と中枢機能について学び検査法を実習する。	教科書(作業療法評価学第3版)p138-p150を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	玉 珍		
第9回	基本動作② 神経発達学的側面から、原始反射と出現時の病的意義を論じる。	教科書(作業療法評価学第3版)p138-p150を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員	大坂 隆介		
第10回	学外検査実習① 学外の近隣施設において、4-5名の小グループに分かれ、対象者に対しROM、MMT、Br.stage、反射検査などの検査実習を行う。 施設の都合により、詳細な日程は別途連絡する。	ROM、MMT、Br.stage、反射検査等について実技練習を行うこと(60分)。	検査実習の結果をレポートにまとめ提出すること(60分)。
担当教員	金子 翔拓		

第11回	学外検査実習② 学外の近隣施設において、4-5名の小グループに分かれ、対象者に対しROM、MMT、Br.stage、反射検査などの検査実習を行う。 施設の都合により、詳細な日程は別途連絡する。	ROM、MMT、Br.stage、反射検査等について実技練習を行うこと(60分)。	検査実習の結果をレポートにまとめ提出すること(60分)。
担当教員	金 京室		
第12回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること(60分)。
担当教員	金子 翔拓		
第13回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること(60分)。
担当教員	金 京室		
第14回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること(60分)。
担当教員	大坂 隆介		
第15回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること(60分)。
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度, レポート, 実技試験(Basic OSCE)を総合的に判断する。
その他	0	なし
教科書		
新・徒手筋力検査法 原著第10版／協同医書出版社		
参考文献		
随時紹介します		
履修条件・留意事項等		
原則、欠席を認めない。恵庭近郊で行う検査実習施設への交通費は学生負担である。検査実習を休んだ場合、代替実習はできない。ケージを着用すること。また、B-OSCEに合格しなければ単位認定しない。		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		機能活動代償学Ⅱ				ナンバリング	3501
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている(知識・技能)」こととも関係する。機能活動代償学Ⅰおよび身体障害作業療法治療学実習から繋がる科目である。

授業の概要

切断に対する各種義肢の構造、分類、適用とチェックアウトのポイントについて学ぶ。また、上肢・体幹・下肢装具の構造、分類、各疾患に対する適用法について理解を深める。

到達目標

- ・義手および義足の構造、分類、適用を説明できる。
- ・義手および義足のチェックアウトのポイントを挙げるができる。
- ・上肢・体幹・下肢装具の構造、分類、各疾患に対する適用法を理解できる

授業の方法

教科書、パワーポイントや配布印刷物(ハンドアウト)を用いた授業を行う。理解度確認のため、小テストを実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

身体障害領域の勤務経験があり、義肢・装具について幅広い知識を有している。この経験を活かして本科目の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テストを実施し、これらの解答に説明を加えて、フィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	義肢学総論、義手の分類と構造・機能 ・四肢切断、欠損の原因と切断・欠損レベル・切断術術後管理について学習する ・義手の構造上の分類と機能的分類、切断部位(レベル)に対応する義手の構造・機能、義手の構成要素について学ぶ	教科書1頁から22頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	上肢切断の作業療法評価と義手のチェックアウト ・上肢切断に対する作業療法評価、義手のチェックアウトについて学習する	教科書25頁から35頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	上肢切断の作業療法アプローチ ・作業療法アプローチの流れを学習する ・義手装着前訓練、義手操作訓練について学ぶ	教科書37頁から46頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	義足の分類と構造・機能、下肢切断の評価とアプローチ ・股義足・大腿義足・膝義足・下腿義足・足部義足の構造とリハビリテーションについて学ぶ	教科書49頁から68頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	装具学総論、上肢装具 ・装具の目的や分類、3点固定の原理、製作の流れ、装具に必要な運動学を学ぶ ・各種上肢装具の構造、役割、適応について学ぶ	教科書71頁から92頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第6回	下肢装具 ・下肢装具の基本的な部品の名称・構造・機能を学ぶ ・疾患別に下肢装具の種類や目的、基本的な構造や機能を学習する	教科書133頁から144頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	体幹装具 各体幹装具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能を学習する	教科書147頁から155頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	まとめと試験 1～7回の試験のまとめを行う	授業配布資料および教科書を復習する(90分)	配布資料および教科書を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%) + まとめ試験(50%)	
その他	0		
教科書			
義肢装具学 / 石川朗・種村留美・白戸力弥編 / 中山書店			
参考文献			
義肢装具のチェックポイント第9版 / 日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修 / 医学書院			
履修条件・留意事項等			

なし

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学特論 I (運動器)				ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金子 翔拓						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「思考・判断・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。」能力を達成するための科目である。解剖学、解剖学実習、運動学、作業療法評価学・治療学を基に実施していく。

授業の概要

臨床的な立場から運動器疾患・障害をとらえ、それらに対する具体的な治療法について深く学ぶ。特に作業療法士が深くかかわる運動器リハビリテーション(技術や知識の習得)について、その理論と実践を学習する。

到達目標

- ① 関節可動域訓練の理論と方法について説明出来る
- ② 関節モビライゼーションテクニックについての理論と方法について説明出来る
- ③ ストレッチングについて説明できる

授業の方法

講義及び演習形態で実施していく。

関節可動域制限について例題を出し、それをグループにて考え導き出す、Active learningを用いる

ICT活用

Google formを活用して、復習動画や確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、身体障害作業療法治療学特論(運動器)の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
授業内にフィードバックしていきます			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	関節可動域訓練の理論と実際①	関節可動域訓練について予習する.(90分)	関節可動域訓練について復習する.(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	関節可動域訓練の理論と実際②	関節可動域訓練について予習する.(90分)	関節可動域訓練について復習する.(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	関節モビライゼーション・テクニック① その理論と方法	関節モビライゼーション・テクニックについて予習する(90分)	関節モビライゼーション・テクニックについて復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第4回	関節モビライゼーション・テクニック② その理論と方法	関節モビライゼーション・テクニックについて予習する(90分)	関節モビライゼーション・テクニックについて復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第5回	ストレッチング① その理論と実際	ストレッチングについて予習する(90分)	ストレッチングについて復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第6回	ストレッチング② その理論と実際	ストレッチングについて予習する(90分)	ストレッチングについて復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第7回	体幹に対する運動療法・作業療法①	体幹機能の評価・治療について予習する(90分)	体幹機能の評価・治療について復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第8回	体幹に対する運動療法・作業療法②	体幹機能の評価・治療について予習する(90分)	体幹機能の評価・治療について復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、授業態度、出席状況から総合的に判定する	
その他	0	なし	
教科書			
指定しない			
参考文献			
徒手の理学療法, 藤縄理, 三輪書店			
履修条件・留意事項等			

KC着用にて授業を受けること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 作業療法学科						
区分	専門科目 作業療法治療学						
科目名	身体障害作業療法治療学特論Ⅱ(中枢系)					ナンバリング	3511
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、金 京室						

授業の位置づけ

作業療法を実践するために必要な知識・技術を身につけるための科目である。根拠に基づく作業療法の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる能力をつけるための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)」と関連する。「中枢神経系障害作業療法学」「リハビリテーション障害学」「運動器障害作業療法学」「内部障害作業療法学」を基に実施していく。

授業の概要

中枢神経障害に対する作業療法の理論的背景、実践的な評価および治療技術を学ぶため、グループによる演習などを行う。

到達目標

1. 中枢神経障害の介入に必要な作業療法の評価について基本的技法を実施することができる。
2. 中枢神経障害に対する評価結果に基づいた解釈を行い、適切な目標設定が立案できる。
3. 目標立案までの一連の流れをまとめ、プレゼンテーションすることができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いた方法を説明したのち、グループによる実技練習を行う。授業終了時にコメントシートに質問や感想を記入してもらい、次回の授業始めにフィードバックする。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

金谷ならびに金は、リハビリテーション病院において作業療法士としての勤務経験があり、中枢神経系疾患について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。加えて、臨床経験が豊富な作業療法士2名をゲスト講師として迎え、より実践的な学び場を提供する。

課題に対するフィードバックの方法			
前回授業のコメント・質問を踏まえ、授業始めに口頭・実演などを用いたフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中枢神経系障害の障害像および脳卒中の情報収集・面接	脳卒中における情報収集・面接方法について予習する(90分)	脳卒中における情報収集・面接方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	脳卒中の評価: Top-downやBottom-upアプローチに基づく評価	脳卒中におけるTop-downやBottom-upアプローチに基づく評価方法について予習する(90分)	脳卒中におけるTop-downやBottom-upアプローチに基づく評価方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	ICFに基いた問題点抽出・目標設定	ICFに基いた問題点抽出・目標設定方法について予習する(90分)	ICFに基いた問題点抽出・目標設定方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	治療プログラムの紹介と実践	治療プログラムに方法について予習する(90分)	治療プログラムに方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	生活行為向上マネジメント(MTDLP)に基づく作業療法介入 ①(ゲスト講師:森田)	MTDLPに基いた問題点抽出・目標設定方法について予習する(90分)	MTDLPに基いた問題点抽出・目標設定方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第6回	MTDLPに基づく作業療法介入②(ゲスト講師:森田)	治療プログラムに方法について予習する(90分)	治療プログラムに方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第7回	脳卒中患者の自動車運転評価・支援の理論と実践①(ゲスト講師:山田)	脳卒中患者の自動車運転の評価方法について予習する(90分)	脳卒中患者の自動車運転の評価・支援方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	脳卒中患者の自動車運転評価・支援の理論と実践②(ゲスト講師:山田)	脳卒中患者の自動車運転の評価方法について予習する(90分)	脳卒中患者の自動車運転の評価・支援方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(80%)・出席態度(20%)	
その他	0	なし	
教科書			
特に指定しない			
参考文献			
特に指定しない			
履修条件・留意事項等			

特になし
備考欄
特になし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 作業療法学科						
区分	専門科目 作業療法治療学						
科目名	身体障害作業療法治療学実習					ナンバリング	3512
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。また、「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」こととも関係する。これまで履修した身体障害領域の作業療法に関する専門科目の総まとめとなり、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに繋がる科目である。</p>							
授業の概要							
身体障害作業療法で実践される治療技法および事例検討についてグループワークで実習する。							
到達目標							
①主に運動器障害の疾患の概要、治療、アプローチ法および実践について説明ができる。②医療画像の基本的な診方ができ、病態と結びつけることができる。③頸髄損傷の病態および作業療法の介入について説明ができる。④筋萎縮性側索硬化症(ALS)の病態と作業療法のアプローチ法について説明ができる。⑤スプリント療法の原理に基づき、基本的なスプリントが作製できる。⑦これまで学習した作業療法治療学をもとに事例検討を行い、評価、ゴール設定、治療計画およびその意義について説明し、レポートを完成させ、プレゼンテーションができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いての講義、実習、グループディスカッションおよび学生によるプレゼンテーション形式の授業を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
科目筆頭教員は15年以上の作業療法士の実務経験があり、身体障害作業療法について幅広い知識・経験を有している。またその他の教員も実務経験を有しており、これらの経験を活かして指導を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
グループディスカッションおよび学生によるプレゼンテーションに対して、フィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	頸髄損傷の作業療法の基本的考え方とその実際 頸髄損傷の病態、評価法、介入法を学ぶ。	頸髄損傷の病態・医学的治療について予習しておくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	頸髄損傷のADLとその介入法とその実際 各高位残存レベルに応じた具体的介入法を学ぶ。	前回の授業の復習を行うこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	運動器疾患に必要な画像の診方 レントゲン、CT、MRI、超音波画像を中心に講義する。	教科書1の2-36頁、38-54頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	末梢神経障害の作業療法、治療の基本と実際 末梢神経障害の病態、作業療法アプローチの講義とグループワークを行う。	教科書1の2-36頁、38-54頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料、グループワークでディスカッションした内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	悪性腫瘍に対する治療と作業療法のアプローチの実際を学ぶ。 スプリントの作製方法の基本を学ぶ。	悪性腫瘍の病態について予習しておくこと。教科書1の2-9を読んでおくこと。また、教科書2の1-22頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第6回	型紙法によるスプリント作製実習 型紙を作図し、ショートサムスパイカスプリントを作製する。	教科書2の84-91頁を読み、動 画を閲覧しておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておく こと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	直接法によるスプリント作製実習（白戸） 直接法により、掌側型カックアップスプリントを作製する。	教科書2の24-36頁を読み、動 画を閲覧しておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておく こと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	ポータブルスプリングバランサーの適応と使用方法 三角巾の適用と装着方法	ポータブルスプリングバランサー 適応の目的、適応疾患を調べて おくこと。三角巾の装着方法に ついて調べておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておく こと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第9回	グループワークによる事例検討 グループワークにより事例の評価のまとめ方、問題点の抽 出方法、目標設定の方法を学ぶ。	なし	グループワークにより十分なディス カッションを行い考えを共有す ること。(90分)
担当教員	白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘		
第10回	事例検討後のプレゼン(各グループ) 実習サマリーシートを用いて、各グループでプレゼンテー ションを行う。	プレゼンテーション資料(サマリ ー)の作成、準備を行うこと。(90 分)	他のグループ、教員の意見を参 考に、サマリーを修正し、提出す ること。(90分)
担当教員	白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘		

第11回	事例検討後のプレゼン(各グループ) 実習サマリーシートを用いて、各グループでプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション資料(サマリー)の作成、準備を行うこと。(90分)	他のグループ、教員の意見を参考に、サマリーを修正し、提出すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘		
第12回	定期試験外試験とまとめ	定期試験外試験に備え学習すること	試験内容について復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(60%)、レポート、スプリント作製、グループ作成のプレゼンテーションを評価する。	
その他	0		
教科書			
教科書1: 上肢運動器疾患の画像リハビリテーション/白戸力弥/ヒューマンプレス(2年次から使用) 教科書2: 熱可塑性スプリント作製マニュアル/坪田貞子/三輪書店			
参考文献			
臨床ハンドセラピー/坪田貞子/文光堂 身体作業療法クイックリファレンス/坪田貞子/文光堂			
履修条件・留意事項等			
基礎医学、解剖学、生理学を履修し、復習しておくこと。実習科目のため、原則、遅刻・欠席を認めない。			
備考欄			

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高次脳機能障害作業療法治療学演習				ナンバリング	3516
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大坂 隆介						

授業の位置づけ

作業療法学科のディプロマポリシー「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」を達成するための科目であり、高次脳機能障害作業療法治療学の応用となる。

授業の概要

高次脳機能障害作業療法治療学で学んだ知識を踏まえ評価、介入に必要な発展的な学習を行う。
各種高次脳機能障害に関する評価方法を体験し、実学習を行う。

到達目標

各種高次脳機能障害の評価方法を理解し、マニュアルを参考に自身にて実施することができる。
脳画像を確認し、損傷部位と推定される症状について述べる事ができる。

授業の方法

教科書と配布印刷物を用いた用いた座学に加え、神経学的検査・評価方法については、習熟できるように実践演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

大坂隆介はリハビリテーション病院にて高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえた講義を展開する。

課題に対するフィードバックの方法			
各回毎に理解度についての確認を行い、理解が不足している内容に対して講義内にフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	高次脳機能障害の基礎知識の復習 高次脳機能障害に関連する解剖学等について画像所見を交えながら復習を行う。	高次脳機能障害学ならびに解剖学について講義資料や教科書を参考に復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第2回	視空間認知障害の評価 BITやコース立方体組み合わせテスト等に代表される視空間認知障害の評価バッテリーについての実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第3回	注意機能の評価 CATやTMT等の評価バッテリーやMARS等の観察評価についての実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第4回	遂行機能の評価 WCSTやBADs等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	失語・失書・失読の評価 標準失語症検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		

第6回	失行・行為・行動の評価 標準高次動作性検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する (15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第7回	失認の評価 標準高次視覚検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する (15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第8回	記憶・認知症の評価 WMS-R、RBMT、三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査等の評価バッテリーや観察評価について実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する (15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第9回	全般的知能の評価① HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する (15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第10回	全般的知能の評価② HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する (15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		

第11回	全般的知能の評価③ HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第12回	脳画像のみかた① 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第13回	脳画像のみかた② 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第14回	脳画像のみかた③ 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第15回	学習のまとめと確認テスト これまでに学習した内容についてまとめを行い、理解度確認のテストを行う。テストについては解説を行う。	これまでに学習した内容について復習を行う(15分)	確認テストの内容について復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(50%)、授業への参加度(50%)
その他	0	
教科書		
石合純夫／高次脳機能障害学 第3版／医歯薬出版 岡庭豊／病気がみえるVol.7 脳・神経／メディックメディア		
参考文献		
梶間剛／リハビリPT・OT・ST・Dr. のための脳画像の新しい勉強本／三輪書店		
履修条件・留意事項等		
演習には積極的に取り組むこと。 講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。 講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合は早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		発達障害作業療法治療学演習				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小玉 武志						
授業の位置づけ							
発達障害分野における「作業療法を実践するために必要な基本的知識(知識・技能)を身につけている」ことに関する科目である。発達障害の特徴と評価・治療を習得する							
授業の概要							
発達障害作業療法対象となる各疾患の特徴について学ぶ 各疾患・障害ごとの評価や治療, 必要な社会資源の活用について学ぶ							
到達目標							
各疾患の障害像を理解し, 説明することができる 発達障害作業療法の治療的関わりについて知識を深め, 一部実践ができる							
授業の方法							
パワーポイントや動画等を活用した講義・演習を行う グループワークを行い, 事例に対して様々な視点から理解を深める							
ICT活用							
オンラインでミニテストを実施し, 理解度の把握と知識の定着を図る							
実務経験のある教員の教育内容							
北海道済生会みどりの里にて, 重症心身障害を持つ対象者の方々, 及び外来部門において発達障害の児童に対する作業療法を実践してきた経験から臨床現場で必要となる知識や技術の伝達を行うことができる。また, 現在通所支援事業所の教育にも携わっている経験から, 将来的な発達障害の作業療法の分野の動向を交えながら授業を行う							

課題に対するフィードバックの方法			
ミニテストにより振り返りを行う			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業課題に対するインフォメーション 発達障害に関わる社会制度と、発達障害作業療法に用いられる治療理論について理解を深める	発達障害作業療法治療学を復習する	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第2回	発達障害作業療法の対象となる疾患について学び、個々の疾患の特性について理解する グループワークを行う	前回の講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第3回	中枢性疾患の障害特性について学び、基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第4回	中枢性疾患において治療的手段として行われる手技について実技を行う～座位評価とハンドリング～	これまでの講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第5回	中枢性疾患において治療的手段として行われる手技について実技を行う～動作分析～	これまでの講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			

第6回	重症心身障害の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第7回	神経筋疾患の基礎的理解を深める～筋ジストロフィーの障害特性と作業療法実践について学ぶ～ グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第8回	神経筋疾患の基礎的理解を深める～二分脊椎, 分娩麻痺, その他神経疾患について学ぶ～ グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第9回	自閉スペクトラム症の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第10回	知的障害の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			

第11回	注意欠如多動症, 学習症, 発達性協調運動症の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第12回	各疾患における作業療法の介入について調べ, まとめたものを発表する	自ら調べた内容をまとめ, 発表資料を作成する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第13回	各疾患における作業療法の介入について調べ, まとめたものを発表する	自ら調べた内容をまとめ, 発表資料を作成する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第14回	肢体不自由児に対して動画を見ながら, 治療的介入の視点についてディスカッションを行い, 考えを深める	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第15回	発達障害に対する作業療法実践について内容を深め, 理解度についての確認と復習を行う	これまでの講義内容を復習する (30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>90</p>	<p>総演習の結果 単元ごとのミニテストの結果 グループワークの取り組みの様子</p>
<p>その他</p>	<p>10</p>	<p>授業時の発言 積極性</p>
<p>教科書</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>作業療法学 ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」／長崎重信 監修／メディカルビュー社 発達障害の作業療法 基礎編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一(著)／三輪書店 発達障害の作業療法 実践編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一・岸本光夫(著)／三輪書店</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>積極的な姿勢での授業参加(ディスカッションでの発言) 主体的な行動(質問できる力) 医療人としての最低限の倫理的行動を求めます(話を聞く態度／授業に対する参加意欲)</p>		
<p>備考欄</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学演習				ナンバリング	3524
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						

授業の位置づけ

作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)。2年後期の高齢期治療学で学んだ知識をもとに、実際に高齢期の疾患の事例検討や施設に入所している高齢者との体験授業を通して、より臨床実習に向けての具体的なイメージができる

授業の概要

高齢期の作業療法介入について、必要な知識と技術を学習する。
実際に老健施設やグループホームなどを利用している高齢者と面接・観察による評価やダイバーショナルセラピーによるレクリエーションを企画・実施する。

到達目標

症例検討・グループワークを通して、
1.高齢期作業療法における初期評価、統合と解釈ができる。
2.作業療法の目標を立てて、プログラムの立案までの一連の流れを理解する。
3.学外施設にて個別に高齢者との面談や日常生活の観察などを行い、コミュニケーション方法を獲得することや生活状況をまとめることができる

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式で進める。
グループで事例検討を行い、検討内容を発表する。
学外の施設にて体験型授業にする。発表内容に関してその場でフィードバックを行い、理解度を深める。

ICT活用

- Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
- 授業のパワーポイントをGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

科目担当の玉珍は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、高齢者が特有とする疾患への作業療法評価、介入について幅広く知識を有している。これらの経験を活かして学生の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
レポート及び体験学習のプレゼンへのフィードバックを行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 本科目で学ぶ高齢者特有疾患について全体の説明、および授業形式についてオリエンテーションを行う。 高齢期脳血管障害への作業療法評価について学ぶ	片麻痺患者への作業療法について予習しておく(20分)	高齢期片麻痺の作業療法評価について復習すること(25分)
担当教員			
第2回	高齢期脳血管障害への作業療法介入方法について学ぶ	片麻痺患者への作業療法評価と介入についてを予習しておく(20分)	高齢者の脳血管障害症例をまとめる(25分)
担当教員			
第3回	寝たきり高齢者の作業療法評価・介入方法について学ぶ	寝たきりとは何か、廃用症候群について予習すること(20分)	寝たきりの評価・介入内容の復習をすること(25分)
担当教員			
第4回	高齢者における環境(物的・人的)へのアプローチによる作業療法実践について学ぶ	住宅環境や家族へのアプローチについて予習しておく(20分)	事例の環境へのアプローチを考え、まとめる(25分)
担当教員			
第5回	高齢期神経内科疾患の作業療法評価・日常生活動作獲得に向けた作業療法実践を学ぶ	日常生活動作とは何か、それぞれについて評価方法を予習しておくこと(20分)	事例を通して日常生活動作評価・治療プログラムを立てる(25分)
担当教員			

第6回	高齢期神経内科疾患への作業療法介入について日常生活動作獲得へ向けた作業療法実践を学ぶ	日常生活動作とは何か、それぞれについて評価方法を予習しておくこと (20分)	事例を通して日常生活動作評価・治療プログラムを立てる (25分)
担当教員			
第7回	ダイバーショナルセラピーについて学び体験する(アセスメント、インプリケーション、プランニング、エヴァリュエーション)	ダイバーショナルセラピーについて予習しておくこと。(20分)	ダイバーショナルセラピーについて復習をすること。(25分)
担当教員			
第8回	ダイバーショナルセラピーについて学び体験する(アセスメント、インプリケーション、プランニング、エヴァリュエーション)	ダイバーショナルセラピーについて予習しておくこと。(20分)	ダイバーショナルセラピーについて復習をすること。(25分)
担当教員			
第9回	学外授業説明 認知症高齢者のコミュニケーション, 接し方について	認知症について予習しておく (20分)	認知症高齢者とのコミュニケーション方法, 接し方について復習する (25分)
担当教員			
第10回	学外授業 高齢者事例検討 ① 入所・通所施設、グループホームを利用する高齢者の生活状況を理解する。面接と日常生活活動の観察を評価体験することで、高齢者の生活の状況を学ぶ	認知症高齢者とのコミュニケーション, 接し方の復習しておく (20分)	面接・観察内容をまとめる (25分)
担当教員			

第11回	学外授業 高齢者事例検討 ① 入所・通所施設、グループホームを利用する高齢者の生活状況を理解する。面接と日常生活活動の観察を評価体験することで、高齢者の生活の状況を学ぶ	認知症高齢者とのコミュニケーション、接し方の復習しておく (20分)	面接・観察内容をまとめる (25分)
担当教員			
第12回	学外授業 高齢者事例検討 ② 入所・通所施設 グループホームを利用する高齢者の生活状況のまとめ	前回のケースをまとめ、必要な情報収集をするための工夫を考えておく (20分)	情報収集のまとめ (25分)
担当教員			
第13回	学外授業 高齢者事例検討 ② 入所・通所施設 グループホームを利用する高齢者の生活状況のまとめ	前回のケースをまとめ、必要な情報収集をするための工夫を考えておく	情報収集のまとめ (25分)
担当教員			
第14回	学外授業内容発表・フィードバック	学外見学・体験内容のまとめ (20分)	レポート作成 (25分)
担当教員			
第15回	学外授業内容発表・フィードバック	学外見学・体験内容のまとめ (20分)	レポート作成 (25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題・レポート60%、グループ学習・プレゼンテーション40%
その他	0	なし
教科書		
高齢期作業療法学(第3版)/松房利憲・小川恵子/ 医学書院		
参考文献		
認知症を持つ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― 宮口英樹/メジカルビュー社 ダイバーショナルセラピー 芹澤隆子/三輪書店		
履修条件・留意事項等		
学外授業の際には施設の都合により日程変更や時間延長の場合もあります。		
備考欄		
なし		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 作業療法学科						
区分	専門科目 作業療法治療学						
科目名	高齢期作業療法治療学特論					ナンバリング	3526
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	玉 珍						

授業の位置づけ

根拠に基づく作業療法の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、理論的な問題解決法を見いだせる(思考・判断・表現)科目である。「高齢期作業療法治療学」「高齢期作業療法治療学演習」で学んだ知識や経験を踏まえ、さらに高齢期の作業療法を深めていく授業である。

授業の概要

健常・要支援・要介護高齢者の「意味のある作業」に焦点を当てた作業療法について、症例や実際の高齢者との関わりを通じ、介護予防の視点から学習する。事例について必要な評価・治療プログラムの組み立て方を学ぶ。車椅子の選択やシーティングを通して、作業療法士の役割のひとつである環境調整についての重要性を学ぶ。

到達目標

- ・虚弱、健康な高齢者に対する予防的作業療法の重要性について理解できる
- ・環境調整の一つである車椅子シーティングの重要性と手段、車椅子の種類を理解する
- ・事例を通して、高齢期作業療法の評価、組み立て方を理解する

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いた講義、学外及び学内での体験学習、学生同士のワークを実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は高齢期のリハビリテーション病院で、様々な疾患の高齢者の作業療法に従事していた経験を生かして、介護予防や車いすのシーティングなどの授業を展開する

課題に対するフィードバックの方法			
授業中のグループ発表へフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業オリエンテーション 座位姿勢の重要性と車いすシーティング① 車いすの種類、車いすシーティングの重要性、不良な座位姿勢が及ぼす身体的負荷やADLへの影響を学ぶ。	高齢者の老化による姿勢変化と、不良座位姿勢による生活への影響について調べておくこと。(90分)	座位の不良姿勢が引き起こす身体面への影響や、リスクについてまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	座位姿勢の重要性と車いすにシーティング②(玉) 実際に車いすを使っての座り比べやシート調整、クッションの違いによる座り心地の違いや座圧の変化を体験する。	高齢者の老化による姿勢変化と、不良座位姿勢による生活への影響について調べておくこと。(90分)	車椅子の種類や車椅子のシーティング方法について復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	介護予防の作業療法:要介護者増加の現状と、介護予防を目的とした作業療法介入について学ぶ	介護予防の概要および推進される背景について調べ、予習しておくこと。(90分)	介護予防的な作業療法の重要性と介入について復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	介護予防の視点で高齢者の軽スポーツ体験①(パークゴルフ場での学外授業) パークゴルフを行っている高齢者からルールを教わり一緒にプレーする。高齢者とのコミュニケーションを通じて介護予防の視点からパークゴルフの作業特性や活用方法について考察する。	高齢者の介護予防として行われている作業について事前に調べておくこと。(90分)	授業時に示すレポート課題を作成すること(90分)
担当教員			
第5回	介護予防の視点で高齢者の軽スポーツ体験②(パークゴルフ場での学外授業) パークゴルフを行っている高齢者からルールを教わり一緒にプレーする。高齢者とのコミュニケーションを通じて介護予防の視点からパークゴルフの作業特性や活用方法について考察する。	高齢者の介護予防として行われている作業について事前に調べておくこと。(90分)	授業時に示すレポート課題を作成すること(90分)
担当教員			

第6回	高齢者や片麻痺を想定した基本動作の実施、評価を演習する(玉)	2年後期で学んだ加齢による心身機能への影響と3年前期で学んだ基本動作の評価について予習しておく。(90分)	高齢の片麻痺患者の基本動作の特徴を復習すること(90分)
担当教員			
第7回	高齢者や片麻痺を想定したADLの実施、評価を演習する	2年後期で学んだ加齢による心身機能への影響と3年前期で学んだ基本動作の評価について予習しておく。(90分)	高齢の片麻痺患者のADLの特徴を復習すること(90分)
担当教員			
第8回	事例検討: 高齢期作業療法評価・介入の視点を学ぶ(玉)	作業療法の評価や介入のプロセスを予習しておくこと(90分)	事例の作業療法評価、介入をまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題・授業参加・出席態度にて評価する	
その他	0		
教科書			
高齢期作業療法学(第3版) 松房利憲・新井健五 / 医学書院			
参考文献			
シーティング技術のすべて 木之瀬 隆・森田 智之 / 医歯薬出版株式会社			
履修条件・留意事項等			

学外授業は天候により講義日程が変更になる場合あり

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 作業療法学科						
区分	専門科目 作業療法治療学						
科目名	精神障害作業療法治療学演習					ナンバリング	3534
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。また、その他のディプロマ・ポリシーとも関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」「精神障害作業療法治療学」を基礎とし、「精神障害作業療法特論」「臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」につながる科目である。

授業の概要

精神障害作業療法治療学の講義を踏まえ、精神科作業療法の主な対象である脳の気質性障害、統合失調症、躁鬱病、適応障害などの疾患を取り上げ、各疾患に対する作業療法アプローチについて演習形式で学ぶ。

到達目標

1. 精神科作業療法における代表的な疾患への介入と留意点を説明できる。
2. 治療共同体及び生活療法について説明できる。
3. SSTの説明と実施ができる。
4. グループワーク形式の実習を通じて対人関係スキルを用いることができる。

授業の方法

教科書、配布資料による講義の後、グループワーク形式の演習を実施する。また、各疾患に関する介入と留意点に関する確認テストを実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

精神障害領域における作業療法(精神科デイケア、就労支援施設・機関を含む)における勤務経験を活かして、精神障害領域における作業療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
レポートは適宜コメント及びフィードバックをします。確認テストは提出後、解説をします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	日本における精神障害領域の作業療法の歴史の変遷と介入方法 治療共同体及び生活療法等の治療の枠組みに関する歴史と概念を学ぶ。また、これらの歴史を踏まえて作業療法士が担う役割を考える	精神障害と作業療法P36～55を読む(30分)	治療共同体及び生活療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第2回	精神症状を経験した方の地域生活 生活精神症状を経験した当事者の経験談から、精神症状を経験して生活していくことへの理解を深める。(ゲストスピーカー：北海道ピアサポート協会2名)	精神障害当事者及び家族が書いた本を1冊以上読む(15分)	講義を踏まえ、指定された形式でレポートを作成する(30分)
担当教員			
第3回	統合失調症の作業療法①：回復過程にあわせた作業療法(急性期と亜急性期) 統合失調症の回復過程を確認し、亜急性期における作業療法について学ぶ。	精神医学で学んだ統合失調症の症状、特徴について確認する。生活を支援する精神障害作業療法P36～53を読む(30分)	亜急性期の作業療法の役割と介入(プログラム)についてまとめる(15分)
担当教員			
第4回	統合失調症の作業療法②：回復過程にあわせた作業療法(回復期と維持期) 統合失調症の回復期と維持期の作業療法について学ぶ。	精神機能作業療法学P94～114、生活を支援する精神障害作業療法P134～138を読む(30分)	回復期と維持期の作業療法の役割と介入(プログラム)についてまとめる(15分)
担当教員			
第5回	統合失調症の作業療法③：統合失調症の認知機能障害について(ゲストスピーカー：森元隆文氏) 統合失調の認知機能障害について学び、介入に関する基礎知識を身に着ける。	生活を支援する精神障害作業療法P36～50を読む(30分)	統合失調症における認知機能障害についてまとめる(15分)
担当教員			

第6回	統合失調症の作業療法④:統合失調症の機能障害に対する介入(認知リハを中心に)(ゲストスピーカー:森元隆文氏) 統合失調の認知機能障害に対する介入方法について学び、実施の際の基礎知識を身に着ける。	精神機能作業療法学P186～202を読む(30分)	統合失調症の認知機能障害に対する介入についてまとめる(15分)
担当教員			
第7回	感情障害の作業療法 感情障害(うつ病、躁うつ病等)に対する作業療法について学ぶ。介入方法の一つであるマインドフルネスについて体験し、理解を深める。	精神障害と作業療法P278～285、生活を支援する精神障害作業療法P260～269、精神機能作業療法学P115～130、249～264を読む(30分)	感情障害に対する作業療法の役割と介入(プログラム)、マインドフルネスについてまとめる(15分)
担当教員			
第8回	人格障害と神経症圏の作業療法 人格障害及び神経症に対する作業療法について学ぶ。特に、関りにおける留意点及び森田療法について確認する。	精神障害と作業療法P286～290、300～304、精神障害作業療法P276～280、290～294、精神機能作業療法学P131～141、154～168を読む(30分)	人格障害及び神経症圏の作業療法と留意点、森田療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第9回	アディクションに対する作業療法 摂食障害、アルコール依存症等のアディクションに対する作業療法について学ぶ。特に、回復を促す自助グループ及び動機付け面接(MI)について理解を深める。	精神障害と作業療法P290～300、生活を支援する精神障害作業療法P295～305、精神機能作業療法学P70～83、P142～153を読む(30分)	アルコール依存症、摂食障害に対する作業療法、及び、自助グループ及びMIについてまとめる(15分)
担当教員			
第10回	認知症の作業療法①:認知症の特徴と治療法(ゲストスピーカー:宮嶋涼氏) 精神障害領域での認知症に対する介入の基礎となる、認知症の疾患特徴と治療法について学ぶ。若年認知症も含めた多岐にわたる認知症に対する理解を深める。	精神医学で学んだ認知症の症状、特徴について確認する。(30分)	認知症の症状と特徴、治療法についてまとめる(15分)
担当教員			

第11回	認知症の作業療法②:認知症のリハビリテーションと家族支援(ゲストスピーカー:宮嶋涼氏) 認知症に対する精神科リハビリテーション(作業療法を含めた)と家族支援について学ぶ。特に、若年性認知症の家族会の取り組みなどについて理解を深める。	精神障害と作業療法P315～319、359～363生活を支援する精神障害作業療法P270～275、精神機能作業療法学P70～83を読む(30分)	認知症に対する精神科リハビリテーションと家族支援についてまとめる(15分)
担当教員			
第12回	発達障害の作業療法 発達障害(特に青年期から成人期の発達障害)に対する精神科領域の作業療法について学ぶ。	精神障害と作業療法P304～315、生活を支援する精神障害作業療法P281～289、精神機能作業療法学P169～181を読む(30分)	発達障害に対する精神科作業療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第13回	治療計画(プログラム)の立案 精神障害領域の疾患に合わせた治療計画の立案について学ぶ。また、集団におけるプログラム立案の例としてレクリエーションをテーマに理解を深める。	精神障害作業療法治療学で学んだ精神科作業療法の流れと評価について確認する(15分)	レクリエーションの計画をレポートにまとめる(30分)
担当教員			
第14回	SST(ソーシャルスキルトレーニング)① SSTの理論背景と構造について学ぶ。	精神障害と作業療法P348～352を読む(30分)	SSTの理論背景、構造についてまとめる(15分)
担当教員			
第15回	SST(ソーシャルスキルトレーニング)②と確認テスト 小グループに分かれ実際にSSTを体験する。その後、確認テストを行う。	精神障害と作業療法P348～352を読む(15分)	講義を踏まえSSTを実施できるようにまとめる。また、確認テストの結果を踏まえ、不足している知識を補完する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(授業内での課題・実習を含む)(10%)
その他	0	
教科書		
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支援する精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版		
参考文献		
必要に応じて講義で紹介します		
履修条件・留意事項等		
他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲストスピーカーの日程は別途連絡します。感染症の蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学特論				ナンバリング	3536
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
<p>全てのディプロマ・ポリシーと関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」「精神障害作業療法治療学」「精神障害作業療法治療学演習」を基礎とし、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>精神障害領域の作業療法の変化(対象、介入方法等)について学ぶ。特に、近年求められている地域における精神障害領域の作業療法実践について、知識を身につける。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 近年増加している発達障害等の基本知識を確認し、評価から介入について計画できる。 2. 作業療法士が行っている地域移行及び就労支援(IPS、リワーク)について説明できる。 3. 運動や栄養が与えるメンタルヘルスへの影響が説明ができる。 4. 臨床実習及び国家試験に向けた学習方法が理解できる。 							
授業の方法							
<p>教科書及び配布資料を用いた講義とグループワーク形式の演習を実施する</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
確認テストは提出後、解説をします。レポートについては適宜、コメントをします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	注目されている疾患①:発達障害領域の疾患①～てんかんと知的障害に対する作業療法について 精神科領域における、てんかん、知的障害に対する作業療法を学ぶ	精神医学Ⅰ・Ⅱで学んだ疾患について確認する(60分)	「てんかん」「知的障害」の評価・介入についてまとめること(120分)
担当教員			
第2回	注目されている疾患②:発達障害領域の疾患②～自閉症スペクトラム、ADHD(注意欠陥・多動性障害)に対する作業療法 精神障害作業療法治療学演習を踏まえ、精神科領域での発達障害に対する作業療法を学ぶ	精神障害と作業療法P304～315、生活を支援する精神障害作業療法P281～289、精神機能作業療法学P169～181を読む(60分)	「自閉症スペクトラム」「ADHD」の評価・介入方法についてまとめること(120分)
担当教員			
第3回	精神障害領域における作業療法トピックス1:退院促進地域移行と作業療法 退院促進の手法とケア会議について学ぶ。更には、日本作業療法協会が目指す、精神障害も含めた地域包括ケアについても理解を深める。	精神障害当事者の手記を1冊以上読むこと。(90分)	精神科病院退院後に利用できる社会資源についてまとめる。更に、地域生活で利用可能な資源についても確認する。(90分)
担当教員			
第4回	精神障害領域における作業療法トピックス2:就労支援と作業療法 うつ病の復職支援(リワーク)、精神障害者の就労支援(IPS、諸制度)について学ぶ。近年の制度の変化も確認し、知識の最新化を図る。	就労支援に関する取り組みについてWebなどを利用し、最新の情報を確認する。(60分)	就労支援で用いられる手法やモデルについてまとめる。また、各種制度についても確認し、まとめる。(120分)
担当教員			
第5回	MTDLPと精神科作業療法 精神科領域の作業療法におけるMTDLPの活用について学ぶ。	作業療法評価学で学んだICFについて確認する。また、MTDLPについて配布資料で確認する(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員			

第6回	食生活とメンタルヘルス 食生活が腸内環境や生活リズムを介して脳機能や精神状態に及ぼす影響について学ぶ。	偏食や食欲不振(拒食・過食)などがもたらす心身への影響についてまとめておくこと。(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員			
第7回	運動とメンタルヘルス 適切な強度の運動やスポーツ活動への参加によるメンタルヘルス改善効果について学ぶ。	運動強度の違いによる感情や気分への影響についてまとめておくこと。(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員			
第8回	精神障害における作業療法のまとめ 確認テストによる精神障害領域の疾患ごとの作業療法(特徴と介入が中心)の確認を行う。	精神障害作業療法治療学(演習、特論を含む)で学んだ疾患ごとの特徴と介入方法について確認する。(60分)	レポート「評価計画と介入」を作成する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(講義内課題・小テストを含む)(10%)	
その他	0		
教科書			
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支援する精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版			
参考文献			
必要に応じて講義で紹介します			
履修条件・留意事項等			

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。
感染症の蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		生活行為向上作業療法学				ナンバリング	3542
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						

授業の位置づけ

「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる能力」、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識」を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)」と関連する。基礎作業学、作業分析学実習と関連する。

授業の概要

私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるもととなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援のあり方、評価ツールの使用方法、支援の提案の仕方を学習する。

到達目標

- ①生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について理解する。
- ②生活行為向上マネジメントツールについて理解し、実践できるようになる。

授業の方法

配布プリントによる講義形式の知識伝達と事例演習を各回組み合わせ実施する。

ICT活用

googleclassroomを用いた講義資料の開示と、講義時間以外の双方向性の質疑応答を行う。

実務経験のある教員の教育内容

臨床経験の長い作業療法士により、学生に資料を提示し、解説をしたりすることで、学生が事例を多角的総合的視点で捉え直すことができるように導く。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題(事例報告)について個別に内容確認とよりよい事例となるよう前例を用いた解説を行う。また、googleclassroomを用いた双方向での質疑も行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	生活行為向上マネジメントの背景と概要 オリエンテーション 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について説明する。	基礎作業学の学習内容を復習しておく。(90分)	配布した資料に目を通し、学習した内容について整理する(90分)
担当教員			
第2回	生活行為向上マネジメントの面接技法 生活行為目標を引き出す面接技法について学習する。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント 生活行為アセスメントシートの作成を講義と演習を通して学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第4回	生活行為向上マネジメントの目標設定 合意目標の設定方法について学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	生活行為向上マネジメントの工程分析 生活行為工程分析について具体的方法を学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			

第6回	生活行為向上マネジメントのプログラム立案 工程分析を踏まえた、多職種を交えた包括的なプログラムの立案方法について事例演習を通して学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第7回	生活行為向上マネジメントの立案プログラムの発表 作成したプログラムを他者に分かりやすく説明し、多様な視点があることを学習する。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例 生活行為向上マネジメントの有用性と活用例について学習する。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度(50%) 演習中のグループワークの参加態度 レポート(50%) 講義内に提示する事例報告の作成状況	
その他	0		
教科書			
資料配布します			
参考文献			
日本作業療法士協会編・著/事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版/医歯薬出版			
履修条件・留意事項等			

8回の講義中に3回以上欠席があると単位の認定は不可

備考欄

講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合は早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		日常生活適応学演習				ナンバリング	3540
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍、金谷 匡紘						

授業の位置づけ

作業療法学科のディプロマポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「作業療法を実践するために必要な基本的技能を身につけている。」を達成するための科目であり、「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」に繋がる科目である。

授業の概要

日常生活活動(ADL)の概念・各動作の分析・評価ポイントについて実技を交えて学習する。作業療法の対象とする主な疾患のADLについて、障害特性に応じた評価・介入について理解する。身体面だけでなく、環境因子とADLの関連について学び、福祉用具等の活用について知識・技術を学ぶ。代表的なADL評価スケールによる評価を学ぶ。

到達目標

- ・日常生活行為の概念・意義・範囲について理解できる。
- ・基本動作および日常生活活動の分析・評価ポイントを理解し評価できる。
- ・福祉用具・自助具の知識や活用方法について理解できる。
- ・評価スケールによる評価について理解し実践できる。
- ・日常生活活動の観察と記録を適切に実施することができる

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いた講義・動画等で学習した後、実技の実演指導、学生同士での演習を実施する。

ICT活用

- ・Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
- ・授業のパワーポイントに説明音声吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

科目担当の玉珍、金谷匡紘は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、患者様の日常生活への作業療法評価、介入について幅広く知識を有している。これらの経験を活かして学生の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
B-OSCE後にフィードバックを行う			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業オリエンテーション 日常生活活動とは生活行為の分類、構成要素について学ぶ。	教科書P10～の図1から図9を予習する(20分)	生活行為の構成要素・範囲・ADLの概念について復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第2回	基本動作の分析・評価: 寝返り、起き上がり、座位動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。 片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	寝返り～起き上がりの手順について教科書P66～69を確認しておくこと(20分)	寝返り～起き上がりの動作手順・評価ポイント・介助や誘導方法について復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	基本動作の分析・評価: 立ち上がり、立位、歩行動作の動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	立ち上がり・立位・歩行動作の構成要素について教科書P71～P73を確認しておくこと。(20分)	立ち上がり・立位・歩行動作の手順・評価ポイント・誘導や介助方法について復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	日常生活活動: 食事の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法: 食事動作 食事動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	食事動作について教科書P83～を確認しておくこと(20分)	食事動作手順・評価ポイント・自具について復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第5回	日常生活活動の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法: 整容動作 整容動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	整容動作について教科書P83～を確認しておくこと(20分)	整容動作手順・評価ポイント・自具について復習する(60分)
担当教員	玉 珍		

第6回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: 更衣動作 更衣動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する	更衣動作(上衣)について教科書P121～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の更衣動作手順・評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第7回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: 更衣動作 更衣動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する	更衣動作(下衣)について教科書P121～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の更衣動作手順・評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第8回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: 入浴(玉) 入浴動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	入浴動作について教科書P158～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の入浴動作手順・評価ポイント・リスク管理について復習をする(60分)
担当教員	玉 珍		
第9回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: トイレ動作 一連のトイレ動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する	トイレ動作の構成要素について教科書 P139～を確認しておくこと(20分)	トイレ動作手順・評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第10回	Bathel Index Functional Independence Measure(FIM)の診かた・採点を学ぶ	BI、FIMについて予習をする(20分)	BI・FIMを用いた評価方法を事例を通して復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		

第11回	Bathel Index Functional Independence Measure(FIM)の診かた・採点を学ぶ	BI、FIMについて予習をする(20分)	BI・FIMを用いた評価方法を事例を通して復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	車椅子に乗車しての片麻痺者のトイレ動作を体験し、評価ポイントを確認する	片麻痺のトイレ動作確認しておく(20分)	授業内で体験したトイレ動作について、課題レポートをまとめること(60分)
担当教員	玉 珍		
第13回	車椅子に乗車しての片麻痺者のトイレ動作を体験し、評価ポイントを確認する	教科書P121~片麻痺のトイレ動作の復習しておく(20分)	授業内で体験したトイレ動作について、課題レポートをまとめること(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	基本動作の分析・評価: ベッド~車椅子間の移乗動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助~一部介助・誘導の仕方を学習する	移乗動作について教科書P70~78を確認しておく	片麻痺者の移乗動作の手順、評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	基本動作の分析・評価: 歩行・移動動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助~一部介助・誘導の仕方を学習する	移乗動作について教科書P70~78を確認しておく	片麻痺者の歩行・車椅子移動動作の手順、評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	B-OSCEによる実技試験成績で判定する
その他	0	
教科書		
標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 / 濱口豊太 / 医学書院		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
授業はケーシーもしくはジャージ等動きやすい服装で参加すること		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		作業療法総合セミナー I				ナンバリング	4581
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
既習の基礎医学、臨床医学、作業療法専門領域の知識を統合し、卒業後の臨床活動の技能を向上させるための「総まとめ」であり、作業療法を実践するために必要な基礎的知識を身につけるための科目である。そのため、全てのディプロマ・ポリシーと関係する科目である。							
授業の概要							
最終学年におけるこれまでの基礎作業療法学、作業療法評価学および作業療法治療学の知識・技法を復習し、卒業時の作業療法学科の学生として必要な知識、技法を修得できるよう統合的に学習する。加えて国家試験合格に向けた総合学習としている。							
到達目標							
1.総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの経験をふまえ、実際の作業療法について説明できる。 2.すべての領域での知識と技術を総合し、作業療法士の臨床活動を具体的に説明できる。 3.これまでの講義内容で得られた知識を再確認し、模擬試験に生かすことができる。							
授業の方法							
・配布する資料を使い講義し、国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。 ・講義方式の座学とグループによる演習を交える。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
適宜講義の重点内容について課題を出し、講義でフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	精神障害の作業療法 (1) 気分障害・依存症・てんかんの作業療法について理解し、説明できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	内部障害の評価およびアプローチ方法について理解し説明できる	内部障害作業療法について調べておくこと。(30分)	内部障害における具体的に患者支援について復習すること。(15分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	発達障害の作業療法 発達障害領域(脳性麻痺・先天性障害・自閉症スペクトラムなど)への具体的な対応について解説できる。	様々な発達障害領域の疾患について調べておくこと。(30分)	さまざまな発達障害に対する具体的な作業療法評価・治療について復習すること。(15分)
担当教員	金 京室		
第4回	MTDLPと地域包括 MTDLPの背景と構造について理解し説明できる。地域包括に関連する制度について理解し説明できる。	MTDLPの構造と地域包括ケアシステムについて予習すること。(30分)	MTDLPと地域包括、介護保険制度について復習すること。関係のある国家試験過去問題を解くこと。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	精神障害の作業療法 (2) 統合失調症に対する作業療法について理解し、説明できる。また、心理検査に関し理解し、説明できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		

第6回	中枢神経疾患を含め、作業療法評価における総論について理解し説明できる。	中枢神経疾患の各種の評価について予習すること。(30分)	症状と脳の機能局在との関連について、国家試験過去問題を解きながら確認すること。(15分)
担当教員	大坂 隆介		
第7回	運動器の作業療法 (1) 整形外科領域の障害への具体的な対応を解説できる。	整形外科疾患全般にわたり、その症状や予後について調べること。(30分)	各種の検査手技を復習し、国家試験過去問題で確認すること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	高齢期作業療法(日常生活活動・地域作業療法領域も含む) 高齢者への具体的な対応について解説できる。第1回確認テスト。	高齢期における様々な障害について調べること。(30分)	作業療法における具体的な患者支援について復習すること。(15分)
担当教員	玉 珍		
第9回	精神障害の作業療法 (3) 神経症圏・パーソナリティ障害の作業療法について理解し、説明できる。関連する地域での作業療法(支援)について解説できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第10回	運動器の作業療法 (2) 作業療法に深くかかわるハンドセラピーについて解説できる。	上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること。(30分)	手の外科的対応と後療法について国家試験過去問題を確認すること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		

第11回	義肢装具学 主に義手や装具、自助具について深く学び、症例への具体的な対応について解説できる。	離断・切断、四肢欠損などで発生する障害について調べておくこと。(30分)	具体的な作業療法について、国家試験過去問題を解きながらまとめること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	中枢神経障害の作業療法(3)日常生活活動への具体的な対応について論じることができる。	具体的なADLに関連するキーワードを調べておくこと。(30分)	各種評価法について国家試験過去問題を調べて確認すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第13回	評価学 運動器系、内部疾患系への具体的な対応について解説できる。	呼吸循環器疾患、代謝性疾患について予習すること。(30分)	作業療法における具体的な評価法について国家試験問題などをもとに復習すること。(15分)
担当教員	大坂 隆介		
第14回	中枢神経系の理解～脳血管障害 中枢神経系について解剖学や生理学的な観点から理解し、脳血管障害と関連付けて説明できる。	中枢神経系の構造と機能について予習すること。(30分)	症候学的内容について復習すること。関係のある国家試験過去問題を解くこと。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	基礎作業学 作業療法の基礎理論を総復習し、具体的・実践的な作業療法への応用について解説できる。第2回確認テスト。	作業療法における様々な理論について予習すること。(30分)	各種理論の作業療法への応用について国家試験問題を通じてまとめること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の確認テストの成績80%、授業の取り組み態度(小テストなど)20%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
なし		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		作業療法総合セミナーⅡ				ナンバリング	4582
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、瀧山 晃弘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「思考・判断・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。」能力を養うための科目である。作業療法総合セミナーⅠと連続し、国家試験に合格する実力をつける。

授業の概要

作業療法士に必要な基礎医学、臨床医学を学習し、作業療法の専門科目との統合を学ぶ

到達目標

1. 作業療法における基礎医学知識のまとめの学習ができる。
2. 生理学、運動学、基礎医学(内科、整形外科、循環器、呼吸器疾患)を再学習する。
3. 基礎医学を学習することで作業療法の専門科目との統合学習ができる。
4. 最終学年として国家試験に向けて復習および知識の統合を行うことができる。

授業の方法

講義とミニテストを実施し、解説を行う。授業ごとにグループワークを実施し、不明な点を明確にする。

ICT活用

Google formより教員が作成した確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員が実務経験を有しており、各専門領域の教員が授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法			
小テスト、模擬試験ごとに解説を提示し、フィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	生理学分野1 ・循環器の構造と機能について理解していることを確認する。 ・各内分泌器官から分泌されるホルモン名と、その機能を理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	生理学分野2 ・呼吸器について構造と機能を理解していることを確認する。 ・消化器の構造と機能について理解していることを確認する。 ・消化酵素の分泌部位とその機能について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	生理学分野3 ・血液の機能について理解していることを確認する。 ・血球の種類と機能について理解していることを確認する。 ・免疫系の機能について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第4回	生理学分野4 ・泌尿器の構造と機能について理解していることを確認する。 ・代謝について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第5回	生理学分野5 ・末梢神経の構造と機能について理解していることを確認する。 ・自律神経の走行と機能について理解していることを確認する。 ・中枢神経の走行と機能について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		

第6回	解剖学分野1 ・中枢神経の構造について、画像情報を読み取れることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	大坂 隆介		
第7回	解剖学分野2 ・上肢の骨の名称と細部の構造について理解していることを確認する。 ・上肢の筋肉について、起始・停止、神経支配、機能を理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第8回	解剖学分野3 ・下肢の骨の名称と細部の構造について理解していることを確認する。 ・下肢の筋肉について、起始・停止、神経支配、機能を理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第9回	運動学分野1 ・動作解析の手技と臨床的意義について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第10回	運動学分野2 ・関節および筋肉に関する検査法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		

第11回	運動学分野3 ・関節および筋肉に関する検査法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	生理学分野6 ・末梢神経の構造と機能について理解していることを確認する. ・自律神経の走行と機能について理解していることを確認する. ・中枢神経の走行と機能について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	大坂 隆介		
第13回	検査学分野1 ・神経学的検査方法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	検査学分野2 ・画像診断を正しく行えることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	精神神経学分野 ・精神疾患の症状について正しく理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと(25分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回行う小テストおよび模擬試験の総得点で評価する. 確認テストも実施する
その他	0	なし
教科書		
指定しない		
参考文献		
クエスチョン・バンク 作業療法士国家試験問題解説 2024共通問題、専門問題 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
必要に応じて資料を配布する。 積極的にグループワークを活用し学ぶこと。 出席すること		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学Ⅱ				ナンバリング	3566
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的技術を身につけている。」能力を育成する科目である。リハビリテーション概論、作業療法概論の内容を踏まえ、地域作業療法学演習、地域作業療法学実習のまとめとなり、作業療法管理運営・法規の基礎となる。

授業の概要

地域リハビリテーションの概念について理解を深め、生活障害に対するアプローチの具体的方法を学ぶ。また、介護予防や障がい福祉などの制度の枠組みとその問題点を理解し、地域づくりにおけるリハビリテーションの視点の重要性について考察する。

到達目標

1. 地域のとらえ方について説明ができる。
2. 地域作業療法を支える制度・施策について説明ができる。
3. 地域作業療法の枠組みや地域づくりについて説明ができる。
4. 地域作業療法における地域の活動について説明ができる。
5. 地域で活動する作業療法士の視点を説明ができる。

授業の方法

教科書・配布資料とパワーポイント等を用いて講義形式で知識を教授する。
各講義に関連するテーマについて、グループディスカッションやグループワークの時間を随時、設ける。
講義のまとめとして、確認テストを実施する。

ICT活用

特になし。

実務経験のある教員の教育内容

市町村衛生行政において作業療法士として勤務した経験を活かして、保健福祉に関する地域作業療法についての授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
授業内課題に関しては授業時間にコメントします。レポートは返却時にコメントします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション・地域作業療法とは ・地域包括ケアシステムについて 本科目の全体的な構成と「地域」のとらえ方、地域作業療法の対象・目的・内容等について学ぶ。介護保険制度の概要を学ぶ。地域包括ケアシステムの背景を理解して、地域包括ケアシステムの概要を学ぶ。	教科書p2～19、p114～142を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIを読む。(45分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防について 総合事業、介護予防事業の基本的な枠組みを学ぶ。運動器・口腔機能・認知症・うつ閉じこもり等の介護予防事業について学ぶ。	教科書p26～33、p158～182を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIVを読む。(45分)	健康づくりの活動(体操)について調べ、発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員			
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防評価について ・健康づくりの活動について 介護予防事業に使用する評価を学ぶ。健康づくりのための体操について、自身で調べ発表する。	教科書p144～155、p184～201を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のVを読む。(45分)	講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の介護予防について 住民主体で行う適切な運動を学ぶ。地域づくりによる介護予防を学び、地域での実際の取り組みを学ぶ。	教科書p87～111を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIIIを読む。(45分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスについて ・農福連携について 障害者総合支援法による障害福祉サービスの概要を学ぶ。農福連携の取り組みを学ぶ。	参考文献 恵庭市農福連携成功事例集(Web)を読む。(90分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			

第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止について ・差別解消について ・地域健康教育について 障害者虐待防止法による虐待の防止について学ぶ。 障害者差別解消法による差別解消について学ぶ。 地域健康教育について学ぶ。	参考文献 市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応の手引き(Web)を読む。(90分)	地域健康教育について調べ、発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員			
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症施策について 新オレンジプランに基づく認知症施策の内容を学び、具体的な事例を学ぶ。	参考文献 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)(Web)を読む。(90分)	グループ発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員			
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域健康教育について グループで地域健康教育を実施して、討議する。	各グループの健康教育資料を読む。(90分)	グループ発表で学んだことをレポートにまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の取り組み20%、レポート課題40%、確認テスト40%	
その他	0		
教科書			
地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ/田中 康之・清水 順市編/文光堂			
参考文献			
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学全書改訂第3版第13巻地域作業療法学/太田睦美/協同医書出版社 ・地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～/日本作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会(Web) ・恵庭市農福連携成功事例集/恵庭市農福連携による障がい者等就労促進ネットワーク・恵庭市(Web) ・市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応の手引き/厚生労働省(Web) 			
履修条件・留意事項等			

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		産業作業療法学				ナンバリング	3568
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」 (知識・技能)「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」の一分野を学習し、予防的作業療法の基本的技術につなげる科目である。 公衆衛生学、地域作業療法学Ⅰ、地域作業療法学実習での学習や体験の総まとめとなり、さらに産業労働者の健康生活支援に焦点を当てる。</p>							
授業の概要							
<p>産業労働者の健康問題を明らかにし、健康維持・向上を目標とした予防的作業療法の可能性について理解する。また生活・労働環境の調整、作業バランス、ストレスマネジメント法などについて講義する。また、障がい者の地域生活の現状と問題点にも触れ、地域生活者の「心身の健康」という広い視点で作業療法士の果たすべき役割を考察する。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業労働者の心身の健康問題の現状と発生要因、その評価法を説明できる 2. 労働現場の健康問題、快適職場実現のための法律・管理システム・対処法を説明できる 3. 精神障害や疾病をもつ人の地域生活や就労の現状についてイメージを持ち説明できる 4. 労働者のメンタルヘルス問題とその対処法を説明できる 							
授業の方法							
<p>パワーポイントと配布印刷物、動画等を用いて講義形式ですすめる。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>担当者は作業療法士資格の他に、第1種衛生管理者の資格を有し、これらの知識と経験に基づいて授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
小テストを実施し、これらの返却時にフィードバックをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	産業保健 その1 産業衛生、労働衛生と産業衛生、労働に関わる法律を学習する	公衆衛生学で学んだ労働衛生や産業衛生を復習すること(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	産業保健 その2 労働者の健康問題:職業性疾病、作業関連性疾病などの筋骨格系の問題と対策を学ぶ	職業性疾病、作業関連性疾病にはどのようなものがあるかを予習すること(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	産業作業療法の可能性 職場の健康問題や労働災害の予防のために、作業療法士が貢献できることを学ぶ	職場の健康問題や労働災害にはどのようなものがあるかを調べておくこと(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	産業作業療法の理解のために、人間工学的評価と思考、行動変容理論について学ぶ。	人間工学的評価と思考、行動変容理論について予習する(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	労働者のストレスとメンタルヘルス ハラスメントや長時間労働によるうつ状態、ストレスチェック法、ソーシャル・サポートとコーピングについて学ぶ。	労働者のストレスにはどのようなものがあるかを調べておくこと(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第6回	女性特有の労働対策と予防について、就労・復職支援対策について学ぶ。	女性特有の労働問題、就労・復職支援対策について調べる(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	地域に暮らす障がいを持つ方の生活や就労に関する作業療法から考える(精神障害領域の訪問作業療法、就労支援、デイケア作業療法から見えてくること)(ゲスト講師市島OTR)	障がいのある方の就労支援制度などについて調べておく(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	まとめと定期外試験	これまでの授業内容、小テスト内容を復習すること(90分)	試験内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%)、定期外試験(50%)	
その他	0		
教科書			
指定しない。			
参考文献			
予防と産業の理学療法／樋口由美／南江堂			
履修条件・留意事項等			

授業中には積極的に参加すること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		評価実習				ナンバリング	3703
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	4
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
<p>作業療法を実践するために必要な知識、技術を用いて必要な情報を収集し、分析、整理したうえで論理的な解決方法を見出す能力を養うための科目である。対象者の自立性と主体性に関心を持ち尊重できる能力を身につけるための科目でもある。ディプロマ・ポリシーの「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、その他全てのディプロマ・ポリシーと関係している。3年生前期までに配置される専門基礎科目、専門科目を統合する科目であり、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>1年、2年及び3年前期までに学習した作業療法の知識をもとに、臨床教育者によるクリニカルクラークシップの指導手法を通じて、対象患者の障害像と治療目標を把握し、プログラムの立案・治療・再評価のプロセスやその思考過程についての経験知を高める。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害領域等から実習地が決定される。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法実習生として責任と良識のある行動をする 2. 臨床実習施設における作業療法部門の機能と役割、管理運営について理解する 3. 臨床教育者の指導、管理の下、対象者に適切な評価を見学、模倣、実施する 4. 臨床教育者の指導、管理の下、対象者に適切な治療および援助を見学、模倣、実施する 5. 対象者に行う評価、治療、援助に関する意味やリスクを理解する 6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告を行う 							
授業の方法							
<p>事前事後学習として、学内での講義、実技練習、グループワーク形式での演習を実施。実習施設ではクリニカルクラークシップ方式で臨床教育者(CE)による指導の元、見学、模倣、実施の順に進める。</p>							
ICT活用							
<p>Google formを活用して評価方法の指導や知識を共有し、自主学習を促す。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
事前事後・実習期間中、科目担当・各学生担当教員はCEと連絡を密にして学生状況を把握。集団・個別指導を討論・電話・メール・面談等によって臨機応変に実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	評価実習オリエンテーションと事前指導:評価実習の到達目標を理解し、各専門領域における面接、観察、検査・測定と作業療法プログラム立案の方法を確認する。対象者の全体像をまとめ、作業療法の立案・計画を行う作業療法実践の流れを理解する。	臨床実習指導要領を読み、臨床実習の取り組みを確認する。また、各領域の事前指導に向けた自己学習に取り組む。(90分)	実習施設への事前電話をする。また、事前指導を踏まえ、把握された自己の課題について取り組む。(90分)
担当教員			
第2回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第3回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第4回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第5回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			

第6回	評価実習セミナー、事後指導:対象者への作業療法過程について、サマリーを作成し、発表する。グループでディスカッション等を行い、実習で得た経験を共有する。総合臨床実習 I・IIにむけた学習課題の確認を行い、必要に応じ面談や実技試験を実施する。	学内教員の指導を受けて、サマリーを作成・完成させる。更に、グループでの発表練習をする。(180分)	グループディスカッションの経験を各自でまとめる。その上で、自分今後の課題について集団・個別指導を受けて解決への計画を立てる。(90分)
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導、実習の取り組み状況、事後指導によって総合的に判断
その他	0	特になし
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		
各専門基礎科目・専門科目の教科書、参考書		
履修条件・留意事項等		
3年次前期までの必修科目が全て取得見込みで、B-OSCEに合格していることが履修条件となる。 新型コロナウイルスの蔓延等により学内実習に振替を行う場合は、後日、改めて詳細を説明する。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		総合臨床実習 I				ナンバリング	4704
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	8
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「思考・論究・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす」能力を養うための科目である。「見学実習」「評価実習」に関連し、「総合臨床実習Ⅱ」と独立した、仕上げの科目である。「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

作業療法教育の最終段階として実施されるもので、作業療法実務の総合的な臨床学習を主眼とし、「評価実習」の経験に基づき臨床教育者のクリニカルクラークシップの指導手法を通じて問題点を抽出し、目標をたて治療プログラムを実践する。さらに地域社会での支援者のあり方および支援体制について学び、作業療法対象者の生活実態を総合的に理解することを目的としている。

到達目標

実習施設でCEの指導、管理の下、以下について「見学」「模倣」から段階的に体験し、最終的に「実施」できるようになること。

1. 実習生としての責任と良識のある行動
2. 作業療法部門の機能と役割、管理運営の理解
3. 対象者に対する適切な評価
4. 対象者への適切な治療および援助
5. 対象者の評価、治療、援助の意味やリスクの理解
6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告
7. CEの作業療法過程での思考内容

授業の方法

学外の施設でクリニカルクラークシップ(作業療法参加型)方式による実習を行う。
CEの臨床行動を見学・模倣・実施の順序で実践的に学習する。大学では、事前・事後指導、実習施設への訪問指導を必要時間実施する。自主学習として学生はポートフォリオ形式の実習サブノートを作成する。サマリー及び凝縮ポートフォリオを用いたグループディスカッションを実施する。

ICT活用

Google formを活用して、事例に対する考え方や評価など、適宜学内から発信し、学外実習における自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

全教員が病院やクリニックなどにおいて作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、臨床実習の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
サマリーは学内で教員が1回以上指導します。発表等は教員がその場でコメントします。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	事前指導(35時間) 各種事務手続きと領域ごとの事前指導による知識・技能の学習及び国試模試及びAdvanced-OSCEによる技能・態度到達度確認。	国家試験模試及びAdvanced-OSCEにむけて学習し、必要な事務手続きを行う。	実習施設への事前電話をする。また、事前指導を踏まえ、把握された自己の課題について取り組む。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第2回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第3回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第4回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第5回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		

第6回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第7回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第8回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第9回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第10回	学内における事後指導(35時間) 教員の指導の下、臨床実習の経験をサマリーシート及び凝縮ポートフォリオをまとめる。実習で学んだ経験を発表し、グループディスカッションなどを実施する。	教員の指導を受け、サマリーシートのまとめる。事後セミナーで発表・討論にむけて準備をする。	総合臨床実習Ⅱにむけて、事後セミナーで学習したことをまとめ、不足していることを自己学習で深める。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導(A-OSCE、取り組み態度や出席率など)・実習中の遂行評価・事後指導の評価から総合的に判断。
その他	0	なし
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		
1年生～3年生までに使用した専門書を参考にします		
履修条件・留意事項等		
履修条件:①4年次への進級要件を満たしている、②事前指導に原則全て出席、③A-OSCEに合格 ③のA-OSCEに合格していない場合、臨床実習の配置を取り消し、単位認定できないことがある		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		総合臨床実習Ⅱ				ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	8
担当教員	白戸 力弥、金 京室						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシー「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。また、根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)こととも関係する。</p>							
授業の概要							
<p>3年次までに学習した作業療法の知識、技術を用い、臨床教育者のもとに、作業療法の実践を経験する。基本的には身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域を経験するが、一部老年期障害領域の実習が行われることもある。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。</p>							
到達目標							
<p>以下の目標について実習施設で臨床クラークシップ(診療参加型臨床実習)による「見学」「模倣」から段階的に体験し、最終的に「実施」できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法実習生として責任と良識のある行動をする 2. 臨床実習施設における作業療法部門の機能と役割、管理運営について理解する 3. 臨床教育者の指導、監視の下、対象者に適切な評価を見学、模倣、実施する 4. 臨床教育者の指導、監視の下、対象者に適切な治療および援助を見学、模倣、実施する 5. 対象者に行う評価、治療、援助に関する意味やリスクを理解する 6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告を行う 							
授業の方法							
<p>学内での事前・事後指導と臨床実習施設で臨床教育者の指導、監視の下に8週間の実習を行う。なお、本実習は、北海道文教大学臨床実習指導要領に従って、臨床クラークシップの手法により実施する。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>全ての教員が実務経験を有しており、実習事前および実習事後の指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
事後指導として、サマリー発表を行い、グループディスカッションを行う。また教員からのフィードバックを実施する。さらに追加に必要な学生には個別に対応する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総合臨床実習Ⅱオリエンテーションと事前指導 実習の目的と実施目標を理解し、必要な事務手続きを行う。各専門領域における面接・観察・評価の特性と作業療法プログラム立案の方法・手段を確認する。対象者の全体像をまとめ、治療方針に適したモデルを選択し、作業療法を立案・計画を行う作業療法実践の流れを確認する。	事前指導の日程を把握し、必ず出席すること。	オリエンテーションと事前指導についてよく復習すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第2回	実習施設にて(全8週間) 実習施設におけるリハビリテーション部門の概要と他職種間連携を理解し一員として参加する経験をする。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第3回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、対象者に関連した情報を適切に収集し、作業療法評価と作業療法計画立案する過程を「見学」「模倣」後、最終的に「実施」する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第4回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、作業療法計画を対象者の状況に合わせて「見学」「模倣」、「実施」し、その実施過程をディリーノートに記録し、思考過程を学習する。実施におけるリスクを理解し、最終的に「実施」できるようなる。大学教員による各施設への巡回指導・アドバイスに合わせ必要に応じて適切に改善する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第5回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、必要に応じて対象者の実施状況を再評価、作業療法計画の変更・修正について「見学」「模倣」、「実施」する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		

北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科

第6回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、実習内容や必要な情報を、専門用語を使用して記録し報告する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第7回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、作業療法部門の管理・運営を理解し業務遂行を支援する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第8回	事後指導 事例サマリー発表、討論、情報交換会などを実施する。	学内教員の指示に従い、実習サマリーの作成、発表の準備を行うこと。	サマリー発表で討論した内容について復習すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第9回	なし		
担当教員			
第10回	なし		
担当教員			

第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			
第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導、実習中の遂行状況、実習教育者からの総評用紙、事後指導を含めて総合的に判断する。
その他	0	特になし。
教科書		
指定しない		
参考文献		
北海道文教大学 2024年度臨床実習指導要領 各専門基礎科目、各専門科目教科書と参考書		
履修条件・留意事項等		
総合臨床実習 I の成績に関わらず履修することができる。但し、Advanced-OSCEに不合格の場合は履修できない。特段の理由なしに、休むことはできない。		
備考欄		
(Blank area for additional notes)		